

令和元年度

宇都宮市教育委員会
点検・評価報告書

令和元年8月
宇都宮市教育委員会

～ 目 次 ～

はじめに	1
第1章 教育委員会評価の概要	
1 評価の趣旨	2
2 本市の教育委員会評価	2
3 評価のしくみ	3
4 評価対象・実施期間	3
5 評価の方法	4
6 外部評価委員	4
7 教育委員会の組織	5
8 教育委員の構成	6
第2章 平成30年度評価委員の所見への対応状況	
1 教育委員会の活動状況について	7
2 広報活動について	7
第3章 教育委員会の活動	
1 教育委員会の活動状況	8
2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感	14
第4章 教育委員会施策	
1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する	16
2 生涯にわたる学習活動を促進する	26
3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する	30
4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する	33
第5章 広報・広聴活動	
1 広報活動	35
2 広聴活動	36
第6章 総合評価	37
第7章 評価委員による所見	38
おわりに	40
【参考資料】	
平成30年度 教育委員会付議案件等一覧	41
教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧	48
一般会計予算と教育予算	49

～ はじめに ～

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロールにより、教育の政治的中立性、継続性・安定性の確保や、地域住民の意向の反映を図るため、これまで様々な改正を重ねながら運用され、地方教育行政の基本的な制度として重要な役割を果たしてきました。

このような中、平成20年4月の法改正により、教育委員会の責任体制を明確にし、効果的な教育行政に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的に、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務付けられ、本市においても、平成20年度から独自の点検・評価制度を構築・実施しているところであります。

また、昨今のいじめ問題を契機とした、教育委員会の責任所在の不明確さ、危機管理能力の不足などの課題が指摘されたことから、国において教育委員会の存続を含めた議論がなされた結果、平成27年4月の法改正により教育委員会制度改革が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携の強化など、教育委員会がその職責を果たすことがますます求められております。

本市教育委員会においても、教育委員会制度改革に伴い、平成28年4月より教育長を代表とする新体制に移行し、総合教育会議などを通じて、市長と教育委員会とのより一層の連携強化を図っているところであります。

また、教育委員会会議において、教育行政にかかる基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施設等への視察や教育関係者との懇談会などにより現場の状況を把握し、事務局との意見交換により教育施策への理解を深めながら、教育現場の意向や実態をより反映させた会議の運営に努めております。

本報告書では、平成30年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、外部評価委員のご意見等をいただきながら、点検・評価を行った結果をとりまとめました。

この結果を今後のさらなる効果的な教育行政の推進に活かしてまいります。

令和元年8月

宇都宮市教育委員会

～第1章 教育委員会評価の概要～

1 評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下、「法」という。）」第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、宇都宮市教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

＜地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋＞

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況*について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

※「その権限に属する事務」とは。

法第21条に規定される事務のうち「①教育委員会自ら管理・執行する事務」「②法第25条第1項の規定により教育長に委任されている事務」「③法令により教育長の権限とされている事務」及び、地方自治法第180条の2の規定により委任された事務が対象となる。

2 本市の教育委員会評価

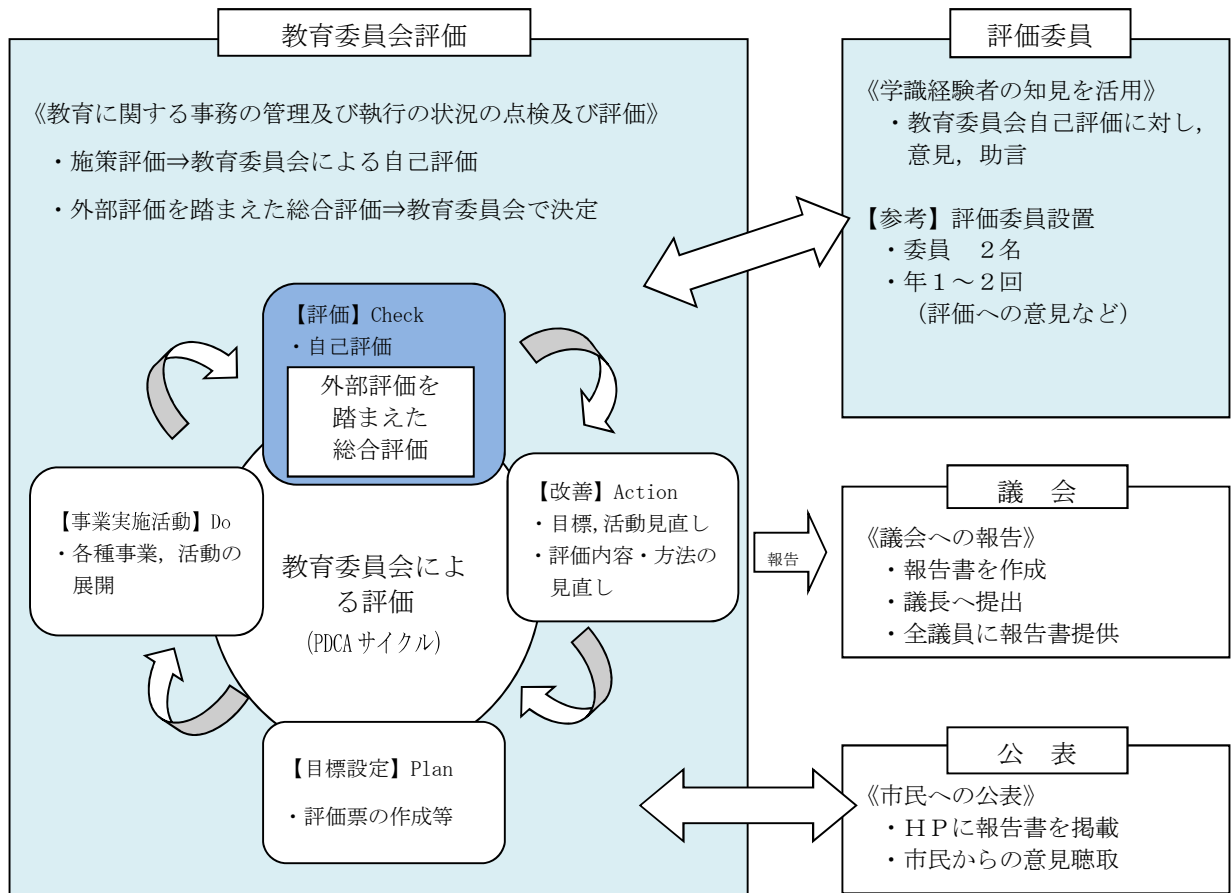
本市の評価においては、まず、「第1章 教育委員会評価の概要」において、教育委員会評価に関するしくみや評価方法について記載し、『第2章 平成30年度評価委員の所見への対応状況』において、昨年度の評価委員の所見に対する、教育委員会の対応状況を記載する。

次に、教育長と教育委員で構成される「教育委員会」の事務及び活動については『第3章 教育委員会の活動』で、また「教育委員会事務局」が実施する施策事業については『第4章 教育委員会施策』により評価を実施するとともに、本市が重点的に実施する広報・広聴活動の取組について、『第5章 広報・広聴活動』により評価を実施する。

最後に、『第6章 総合評価』により平成30年度の総合的な評価について、『第7章 評価委員による所見』の意見を踏まえて評価を実施する。

3 評価のしくみ

教育委員会により自己評価を実施し、外部評価委員の意見を踏まえ総合評価を行う。



4 評価対象・実施期間

(1) 対象

平成30年度実施の教育行政全般とする。

- ◆教育委員会活動
- ◆教育委員会施策
- ◆広報・広聴活動

(2) 実施期間

平成31年4月～令和元年8月

5 評価の方法

(1) 自己評価

- ・各主管課及び教育委員会による自己評価の実施

(2) 自己評価に対する評価委員からの意見の聴取

- ・教育委員会評価委員会議における意見の聴取
- ・評価票による意見の聴取

(3) 総合評価

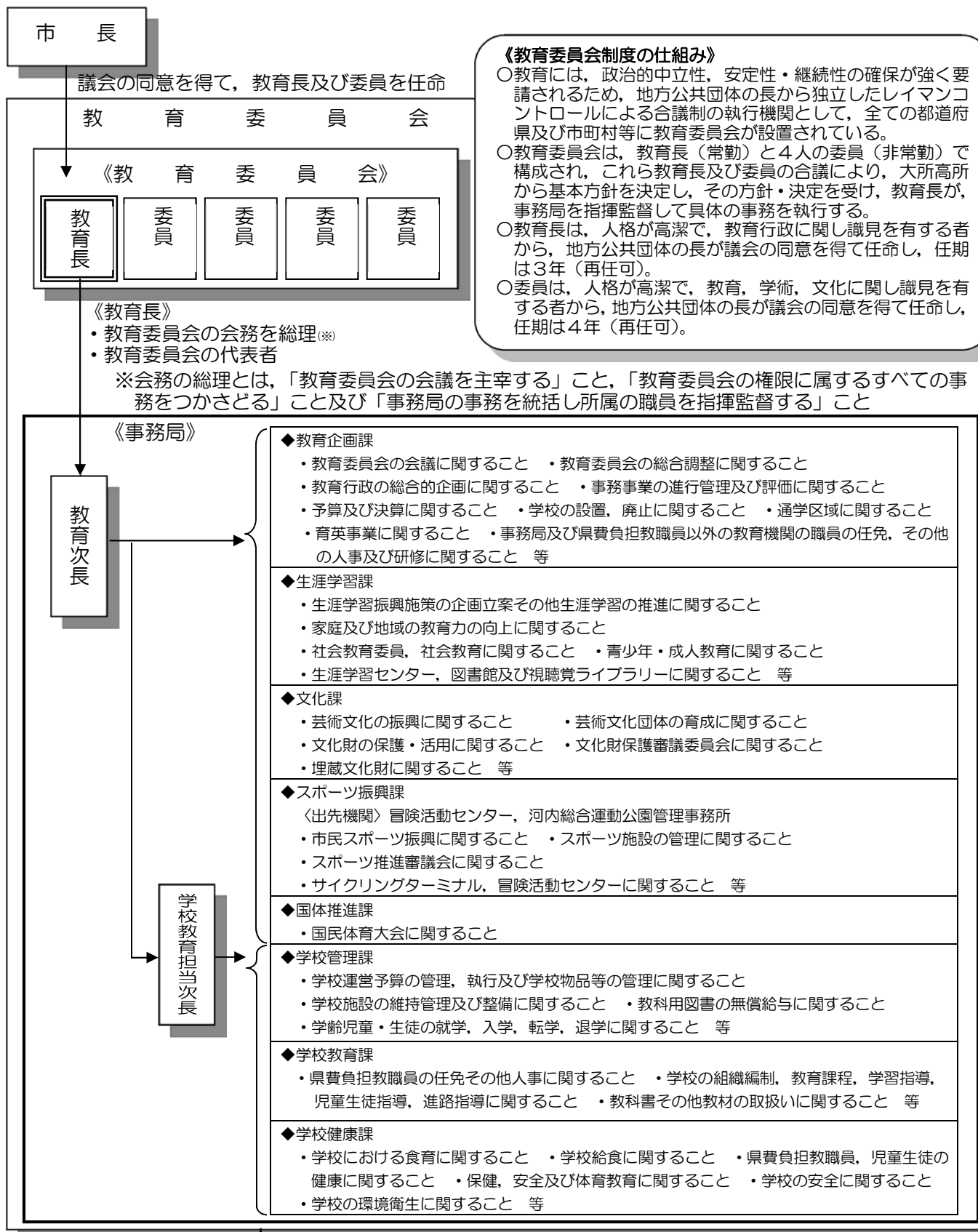
- ・評価委員からの意見等を踏まえた総合的な評価の実施
- ・次年度への課題，今後の方向性の明示

6 外部評価委員（学識経験者）

専門的かつ広い観点からの知見を期して，本市教育行政に大きく携わり，学校教育，社会教育全般における識見の高い方からご意見をいただく。

氏名	団体・役職名
渡邊 弘	作新学院大学学長
加藤 史子	一条中学校魅力ある学校づくり地域協議会コーディネーター 前社会教育委員

7 教育委員会の組織（平成30年度）



学校その他の機関を所管

《教育機関》

小中学校 (93)	教育センター (1)	上河内学校給食センター (1)	図書館 (5)	生涯学習センター (18)	視聴覚ライブラリー (1)	美術館 (1)
--------------	---------------	--------------------	------------	------------------	------------------	------------

8 教育委員の構成（平成31年3月末時点）

職 氏名	教育長 水越 久夫	委員 大場 文恵	委員 伊藤 一	委員 清島 康伸	委員 伊藤 三千代
任期	H28. 4. 1～ H31. 3. 31 (1期)	H19. 10. 1～ R元. 9. 30 (3期)	H25. 10. 1～ R3. 9. 30 (2期)	H28. 10. 1～ R2. 9. 30 (1期)	H30. 10. 1～ R4. 9. 30 (1期)
職業 (分野)	— (教育行政)	大学教授 (文化)	弁護士 (法曹)	会社経営 (青少年育成)	会社員 (地域活動)

※水越教育長は旧制度における教育長（委員）としてH24. 4. 1～H28. 3. 31（2期）まで在任

～第2章 平成30年度評価委員の所見への対応状況～

平成30年7月10日に「平成30年度教育委員会点検・評価」について、評価委員よりいただいた所見に対する対応状況は下記のとおりである。

1 教育委員会の活動状況について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【委員の負担軽減を考慮した会議開催等】 会議の開催時間や回数などについては、委員の負担軽減を考慮した効率的、効果的活動を今後も一層配慮していただきたい。</p>	<p>平成30年度においても、教育委員会の活性化を図る一方で、教育委員会会議の際には、事務局から要点を絞り各案件の説明を行うなど、効率的な会議の開催に努めてきた。</p> <p>今後も、視察や懇談会については、教育委員会定例会に合わせて実施するなど、効率的、効果的活動に努めていく。</p>
2	<p>【教育懇談会の充実】 教育懇談会の開催は現在重要性が高まっており、今後更に充実していただきたい。</p>	<p>平成30年度においては、副校長等との意見交換のほか、施設視察時に子どもの家や部活動関係者と意見交換を行った。</p>
3	<p>【現場の意見や実態把握の工夫】 現場の関係者との意見交換等の実施はとても大切なことだと思うが、出席者の選出等、できるだけ多くの現場の意見や実態報告等が出される工夫も必要かと考える。</p>	<p>教育現場の実態や意向を踏まえた教育行政の推進をさらに図っていくため、令和元年度については、時事的な教育課題も考慮しながら、より多くの教育現場で活躍されている方々との意見交換が実施できるよう、取り組んでいく。</p>

2 広報活動について

No.	評価・意見	対応状況
1	<p>【積極的な意見交換やアンケートの実施】 広聴活動については、教育現場の実態把握という観点から、今後も積極的に意見交換やアンケートを実施していただきたい。</p>	<p>平成30年度においても、「うつのみや学校マネジメントシステム」など、各事業において必要に応じ、アンケート調査を実施するとともに、地域協議会への参加や教職員との懇談など、教育委員による自主活動を通じて、教育現場における意見聴取を実施した。</p> <p>事業の実態や成果、課題などを見出すために、関係者からの意見を収集することは重要であると考えていることから、引き続き、教育現場から、広く意見を取り入れられるよう取り組んでいく。</p>
2	<p>【読む側に立った情報発信】 教育委員会の情報発信については、内容の充実や取組等の周知など努力が伺えるので、引き続き、読む側に立った情報発信をお願いしたい。</p>	<p>これまで「市民に見える教育委員会」の実現に向け、教育委員会広報紙や教育委員会ホームページなど各種媒体を活用した広報活動に取り組んできた。平成30年度発行の「教育委員会だより」では、「宇都宮市の教育の魅力発信！」と題した特集をしたところであり、今後も教育委員会の取組について、広く市民に興味や関心を持ってもらえる内容となるよう、努めていく。</p>

～第3章 教育委員会の活動～

1 教育委員会の活動状況

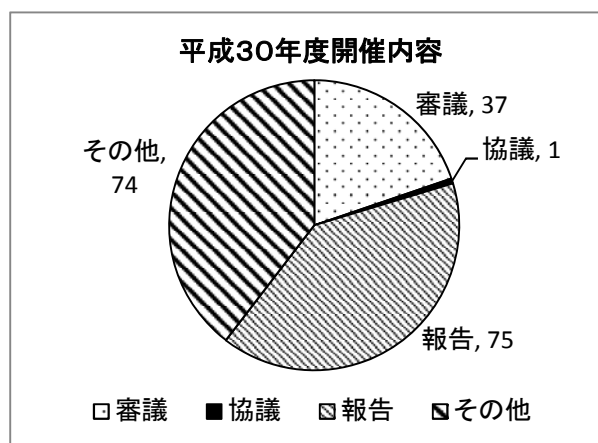
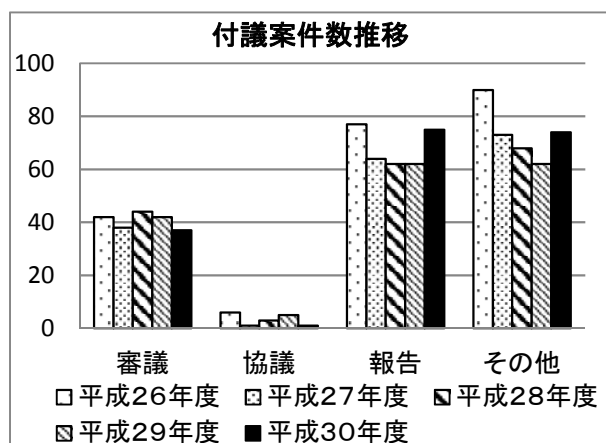
【参考】教育委員会の活動の種類

- 教育委員会会議…教育長及び教育委員が教育行政にかかる基本方針の決定などを行うための会議（法第14条）
- 委員協議会…会議に付すべき議案の事前審議，その他研究協議を行うために開催（宇都宮市教育委員会会議規則第5条）
- その他の活動
 - ・教育施設視察…小中学校や社会教育施設，文化・スポーツ施設などの視察
 - ・教育懇談会…小中学校教職員や社会教育団体，文化・スポーツ団体などの教育関係者との意見交換
 - ・市議会との意見交換…議長，副議長，文教消防水道常任委員会の委員長，副委員長との意見交換
 - ・総合教育会議…首長との連携強化を目的に，教育政策などにかかる協議・調整を行うために首長が設置・運営を行う会議（法第1条の4）
 - ・委員研修…教育の諸課題等にかかる状況把握や専門性を高めるために行うもの
 - ・委員deサロン…各課業務の現状・課題等についての共通理解を深めるために事務局職員と意見交換を行うもの
 - ・自主活動…教育委員が個別に行った教育委員としての活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年比
開催回数	定例会	12	12	12	12	12	0
	臨時会	6	6	7	3	9	6
計		18	18	19	15	21	6
付議案件数	審議	42	38	44	42	37	▲5
	協議	6	1	3	5	1	▲4
	報告	77	64	62	62	75	13
	その他	90	73	68	62	61	▲1
計		215	176	177	171	174	3

※市町村平均開催回数 15.1回(平成29年度教育委員会の現状に関する調査(文部科学省))

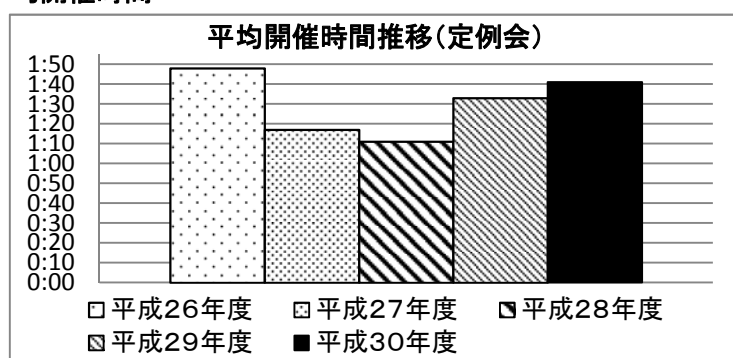


◆平成30年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件数	主な内容
基本方針及び計画策定等	7	予算編成・組織定員方針、計画の策定など
規則等の制定・改廃	3	諸規則の改正
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	6	予算、条例改正などの議会議決案件
人事案件	15	職員人事、教職員人事内申、委嘱など
附属機関等への諮問	2	教育支援委員会への諮問
教科書採択関係	2	小中学校使用教科用図書の採択
その他	2	教育委員会評価、指定管理候補者の選定など
合 計	37	

◆平成30年度教育委員会会議（定例会）の平均開催時間

年度	平均開催時間	回数
平成26年度	1時間48分	12
平成27年度	1時間17分	12
平成28年度	1時間11分	12
平成29年度	1時間33分	12
平成30年度	1時間41分	12



◆平成30年度教育委員会会議の状況について

- ・審議事項については、人事に係る案件は増加したが、計画策定や規則改正に係る案件が減少したため、案件数は前年度を下回った。
- ・協議事項については、計画策定に係る協議件数が減少したため、案件数は前年度を下回った。
- ・報告事項については、学校等事件・事故に関する案件や「大谷石文化」をテーマとした日本遺産認定など、新規事業に関する報告数の増加に伴い、案件数は前年度を上回った。
- ・会議の開催時間については、報告事項が増加したことなどにより、前年度よりやや増加した。

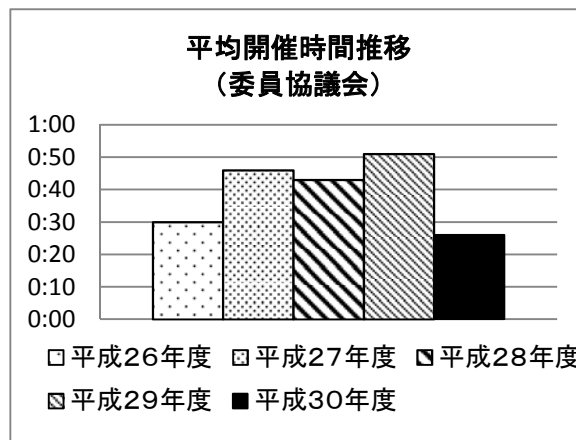
(2) 委員協議会の実施状況

◆委員協議会における主な議題

- ・教育委員会基本方針について など

◆委員協議会の平均開催時間

年 度	委員協議会	
	平均開催時間	回数
平成26年度	30分	15
平成27年度	46分	15
平成28年度	43分	13
平成29年度	51分	12
平成30年度	26分	4



◆平成30年度委員協議会の状況について

- ・教育委員会会議における議案の事前審議や、その他教育課題に関する研究討議を行うため委員協議会を計4回開催した。
- ・平成30年6月より、委員協議会の取扱について規則に基づいて見直しを行い、委員協議会の一部を委員研修や委員 de サロンに移行したことから、開催回数及び開催時間については、前年度より減少した。

(3) 教育施設視察や教育懇談会などの活動状況

活動の実施においては、可能な限り教育委員会会議と同日開催とするなど、効率的・効果的な活動に努めることで、委員の負担軽減を図ったところである。

ア 教育施設視察

実施日	視察先	目的	教育委員の感想・意見
H30. 7. 20	雀宮中央小 子どもの家	子どもの家等事業のあり方検討を行っている中、現在の運営状況や顕在化している課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員の工夫により、メリハリをつけて活動しており、保護者や学校との連携・協力も図れていると感じた。一方で課題として、保護者の役員が担う役割が非常に多いことも再認識した。 ・居場所として、また、社会性を育む場所として、子どもの家は非常に有用な施設であると改めて感じた。
H30. 11. 16	豊郷中 弓道部	部活動指導員の導入による成果と課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・顧問と部活動指導員とが役割分担をし、連携を図りながら、円滑な運営ができていることがわかった。 ・大会における成績も向上しており、成果と課題を踏まえながら、今後、部活動指導員の更なる導入が進むよう、検討していきたいと感じた。



雀宮中央小学校子どもの家



豊郷中学校弓道部

イ 教育懇談会

実施日	内容・参加者	テーマ・目的	教育委員の感想・意見
H30. 8. 21	<p>◆内容 教職員とのふれあいティータイムトーク</p> <p>◆参加者 副校長，教務主任，事務職員</p>	<p>◆テーマ 教育現場における課題について</p> <p>◆目的 教職員の急速な世代交代や、働き方改革など、学校現場における課題を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場では、急速な世代交代に伴い急増した若手職員の育成・サポート体制の工夫を行っていることや、指針に基づく部活動の運営ができていていることなどを知ることができた。 ・現場の声として、部活動指導員を増やすこと、教育課程の編成ソフトを統一導入すること、若手事務員に対してのリーダー研修の充実を図ることなどを求める、貴重な意見を伺うことができた。



教職員とのふれあいティータイムトーク

ウ 委員 de サロン (実務担当者との意見交換)

実施日	事務局出席者	内容
H30. 5. 31	教育企画課	教育施設視察実施計画（素案）について
		職員とのふれあいティータイムトーク実施計画（素案）について
		平成30年度教育委員会点検・評価（教育委員会活動の評価）について
H30. 6. 22	局内各課・所	教育委員会評価（施策全般にかかる評価）
H30. 7. 20	教育企画課	総合教育会議について
H30. 9. 21	教育企画課	育英事業の見直しについて
H30. 10. 19	学校健康課	宇都宮市部活動方針について

H30. 11. 16	学校教育課	(仮称) 第2次宇都宮市学校教育スタンダードについて
H30. 12. 20	生涯学習課	子どもの家等事業に係るあり方検討の進捗状況
H31. 1. 18	生涯学習課	子どもの家等事業に係るあり方検討の進捗状況
H31. 2. 19	教育企画課	平成31年度教育委員会の活動計画について
	学校教育課	個人情報の取扱いについて
H31. 3. 19	教育企画課	平成31年度教育委員会の活動計画について
	教育企画課	総合教育会議について
	学校教育課	「(仮称) 宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」について

教育委員の感想・意見

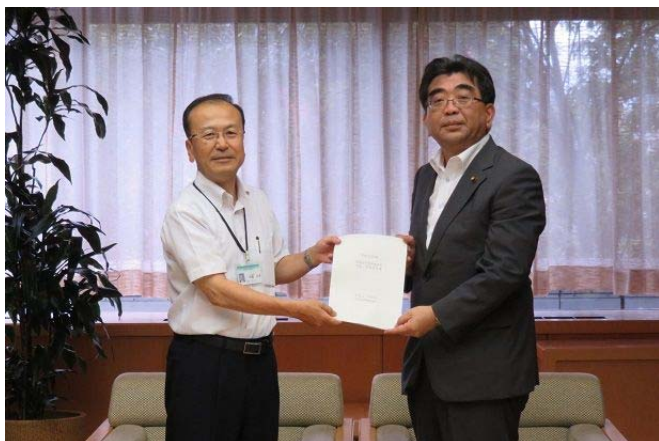
- ・ 実務担当者と気兼ねなく意見交換ができる貴重な場であり、今後も実務について積極的に聞いていきたい。
- ・ 詳しい説明を受けることで、様々な施策について考える上での大きな助けになるとともに、理解を深めることができている。



委員 de サロン

エ 市議会との意見交換

実施日	内容	教育委員の感想・意見
H30. 8. 24	平成30年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書の提出及び報告書に基づく意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会点検・評価報告書の内容をもとに、教育委員会活動などについて報告を行った。 ・ 意見交換会では、学力向上や、魅力ある学校づくり地域協議会、熱中症対策など、多岐にわたる活発で有意義な意見交換を行うことができた。 ・ 教育施策に関する方向性を共有できる有意義な場であった。



教育委員会点検・評価報告書の提出



市議会との意見交換

オ 総合教育会議

実施日	内容	教育委員の感想・意見
H30. 9. 21	郷土への愛情や誇りの醸成に向けて～「宇都宮学」の創設について～	<ul style="list-style-type: none"> ・「郷土への愛情や誇り」の醸成に向けた、「宇都宮学」の創設について、市長と教育委員の共通認識を図った。 ・「宇都宮学」をより充実した取組に繋げていけるよう、今後の取組の方向性についての共通認識を図るとともに、市民がより一層「郷土への愛情や誇り」を持てるよう、市長部局と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認した。
H31. 3. 25	平成 31 年度教育委員会基本方針（素案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度教育委員会基本方針（素案）について、市長へ説明を行い、共通理解を図った。 ・特に力を入れて取り組みたいものとして、家庭と地域の教育力の向上、いじめ防止対策及び不登校対策の強化、宇都宮学の推進などについて、意見交換を行った。 ・「子育て・教育の未来都市」の実現に向け、本市一丸となって取り組んでいくことを、市長と意思疎通を図ることができた。



第1回総合教育会議



第2回総合教育会議

カ 委員研修等

◆事務局職員による委員研修

教育施設視察の実施に向け研修を実施した。

実施日	内容	教育委員の感想・意見
H30. 6. 22	子どもの家等事業視察にかかる事前研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの家等事業のあり方について、検討の基本的な考え方や、これまでの経過について、学ぶことができた。 ・これまでの成果や新たに顕在化してきている課題について把握しながら、今後の検討の方向性について確認することができた。

◆教育委員が出席した総会・研修会など

- ・H30. 5. 21 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ・H30. 5. 25 関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会
- ・H30. 5. 28 栃木県市町村教育委員会連合会総会
- ・H30. 10. 10 河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ・H30. 11. 7 栃木県市町村教育委員会連合会総会・研修会
- ・H31. 1. 23 市町村教育委員研究協議会（文部科学省研修会）

キ 教育委員による自主活動など

教育委員会会議や視察、意見交換会などのほかに、教育委員が個別に行った活動については以下のとおりである。

◆学校関係の活動

- ・市内学校への訪問（研究授業参観、校長・副校長との面談、教職員との意見交換等）
- ・土曜授業や運動会、体育祭、文化祭、入学式など学校行事の参観
- ・市PTA連合会や魅力ある学校づくり地域協議会等の会議出席
- ・特別支援学級 合同運動会、合同収穫祭、合同学習発表会への参加
- ・放課後子ども教室への参加

◆地域の活動

- ・地区の行事、環境点検などへの参加
- ・地域コーディネーター研修会、放課後活動指導者研修会、少年指導委員研修会、青少年育成活動への参加
- ・ジュニアリーダース活動支援
- ・登校時の立哨活動 など

◆イベント・行事への参加

- ・食育フェア、うつのみや人づくりフォーラム、宇都宮文化会館職員との意見交換、ジャパンカップクリテリウム、とちぎ県民カレッジ、ジュニア・ロースクール など
- ・栃木県少年の主張発表河宇地区大会審査

2 教育委員会活動にかかる教育委員の所感

- ・教育委員会活動の開催回数は妥当であり、活動日についても、教育委員会定例会の日程と合わせて開催することで効率的な活動ができている。
- ・教育委員会会議（定例会）では、一市民として、基本的・基礎的なことについて事務局に質疑をするが、毎回丁寧な回答をいただくことで、各事業に対する理解を深めることができている。
- ・定例会において、必要と思われる案件については、十分に時間をかけて討議をしており、充実した審議をすることができている。特に重要な案件については、あらかじめ委員 de サロンにおいて事務局との意見交換を実施することで、諸課題に関する理解を深めるとともに、定例会での円滑な進行を可能にしている。
- ・教育施設視察や懇談会については、実際に現場を見たり、現場の声を聞くことができる貴重な機会であり、取組みの実態や課題などを把握する上で大変参考になった。
- ・今後も、様々な関連施設に積極的に足を運び、教育委員として各事業に対する理解を深めていきたい。
- ・教職員とのふれあいティータイムトークでは、より多くの率直な意見を伺うために、さらに和やかな雰囲気を作る工夫が必要である。
- ・教育委員の課担当制^(※1)により、各課の課題や取組みを学ぶ機会を多く得られている。今後も、担当課の職員と意見交換する機会を設けるなどして、理解を深める取組みに努めていきたい。

(※1) 教育委員の課担当制

教育委員が効果的に教育長及び教育委員会事務局の事務執行にかかるチェック機能を果たすことを目的に、平成28年度より行っている取組で、主要事業の進行管理などにおいて、担当課を特に注視してチェックを行うもの。各委員の役割をより明確にするため、平成29年度から2委員4課担当を1委員1課主担当に変更した。

～第4章 教育委員会施策～

本市で実施している行政評価を活用しながら、第6次総合計画基本計画の体系に掲げた4つの基本施策を構成する16の施策ごとの評価を実施する。

【基本施策・施策】

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

- 施策（1）成長の基盤となる知・徳・体の育成
- 施策（2）未来を生き抜く力の育成
- 施策（3）地域とともにある学校づくりの推進
- 施策（4）教育環境の充実
- 施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進
- 施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上
- 施策（7）幼児教育の推進
- 施策（8）高校、高等教育の充実・支援

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

- 施策（1）自己を磨き社会を支える学習の推進
- 施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実
- 施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

- 施策（1）ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進
- 施策（2）スポーツ活動環境の充実
- 施策（3）スポーツを支える人材の育成，団体の活性化

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

- 施策（1）文化活動の充実
- 施策（2）文化の創造・継承，保存・活用

<参考：施策指標の評価及び総合評価>

区分	A（25点）	B（20点）	C（15点）
①施策指標の達成度	100%以上	70～100%未満	70%未満
②市民満足度 (意識調査結果対前年度)	向上（+5pt以上）	維持（±5pt未満）	低下（-5pt以下）
③主要な構成事業の 進捗状況	計画以上 (構成事業2事業 以上が計画以上)	計画どおり (主に構成事業4事業 以上が計画どおり)	計画より遅れ (構成事業2事業 以上が計画より遅れ)

総合評価	順調 (90点以上)	概ね順調 (75～90点未満)	やや遅れ (75点未満)
	A評価が2つ以上 (C評価がある場合を除く)	主にB評価が3つ以上	C評価が2つ以上 (A評価が2つある場合を除く)

基本施策1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する

施策(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成

施策目標		知・徳・体のバランスのとれた力や、生涯にわたって学び続ける意欲・態度を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。						
施策指標	産出指標	全小中学校からの教育長奨励賞の申請人数(延べ人数)				平成30年度		評価
						目標値	6,546人	
		実績値	6,590人					
		達成度	100.7%					
	基準値(H28)	2,018人	目標値(R4)	17,568人	達成度	100.7%		
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
成果指標	「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した中学3年生の割合(学習と生活についてのアンケート)				目標値	86.7%	A	
					実績値	87.1%		
	基準値(H28)	85.7%	目標値(R4)	88.7%	達成度	100.5%		
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
施策の評価・分析		<p>平成24年度から「宮っ子心の教育」を推進し、児童生徒の自尊感情や自己肯定感の育成を目指し、学校・家庭・地域が連携して、児童生徒のよい取組を認め励ます教育に努めてきたことにより、「宮っ子心の教育表彰」における教育長奨励賞の申請人数が順調に増加している。</p> <p>各学校が「認め励ます教育」の推進とともに、たくましさの涵養に努めたことにより、児童生徒が自己の可能性を信じ、つらいことでもがまんしてやろうと回答した割合が増加している。</p>						
総合評価		順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>児童生徒が、変化の激しいこれからの社会を力強く生き抜くことができるよう、知・徳・体のバランスのとれた力や生涯にわたって学び続ける意欲・態度等を身に付けさせるためには、新学習指導要領において求められる「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善など、その趣旨の具現化に努めるとともに、キャリア教育の一層の推進や、人間としての在り方や生き方の礎となる道徳教育の充実を図る必要がある。</p> <p>文化、体育関係各種大会参加に対する補助など、これまでに引き続き、児童生徒の豊かな学びや健康の増進及び体力の向上を支えるための支援に努めていく必要がある。</p> <p>児童生徒が、健康で安全な生活を送るために必要な資質や能力を高めていけるよう、平成29年度に「体力の向上」、「学校保健」、「食育」、「学校安全」の4つの分野を一体的に捉え策定した「宇都宮市小中学校健康教育推進計画」を推進することにより、自己の体力・健康を主体的に管理できる能力を育成する必要がある。</p>						

	取組の 方向性	<p>本市が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて独自に提案している「宇都宮モデル」の活用などにより授業改善を図るとともに、自己肯定感やたくましさ、望ましい勤労観等を育むため、「宮っ子心の教育」における本市独自の表彰制度の活用や、「宮・未来キャリア教育」における宮っ子チャレンジウィークの着実な実施、キャリアパスポートの活用などを通して、取組の一層の充実に努める。</p> <p>文化、体育関係補助金を継続して交付することにより、教育としての文化、体育活動の一層の推進を図る。</p> <p>健康で安全に生活するための知識や技能を着実に身に付けられるよう、学校の教育活動全体を通じた指導を行う。また、身に付けた知識や技能を日常生活で活かすことができるよう、家庭・地域等と更なる連携を図る。</p>
--	--------------------	--

施策（2）未来を生き抜く力の育成

施策目標		これからのより良い社会の創造に必要な資質能力を児童生徒に身に付けるための教育を推進しています。						
施策指標	産出指標	授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合				平成30年度		評価
						目標値	73.8%	
		実績値	79.3%					
		基準値 (H28)	68.0%	目標値 (R4)	85.46%	達成度	107.5%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合				目標値	44.0%	A
実績値						48.6%		
基準値 (H28)		40.0%	目標値 (R4)	60.0%	達成度	110.5%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>これまで、教員の英語指導力向上を図るため、中学校英語科教員全員を対象とした1泊2日の英語漬け研修を実施したことなどにより、授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合は、単年度目標値を上回る結果となった。また、児童生徒が、英語によるコミュニケーション能力を確実に身に付けることができるよう、平成30年度にはALTを8名増員し、46名体制による指導の充実に努めたことなどにより、英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合は、昨年度より増加した。</p>						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>これからのグローバル社会で求められる、英語によるコミュニケーション能力の向上や、郷土への愛情と誇りの醸成を図るためには、児童生徒が授業時間外においても英語に触れることができる機会や、ふるさと宇都宮について体系的に学習することができる機会を創出する必要がある。また、令和2(2020)年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に対応するため、プログラミング教育を推進するとともに、児童生徒の情報モラルの育成を図る必要がある。これらの取組の推進にあたっては、教員の指導力向上が欠かせないことから、教員研修の充実等に努める必要がある。</p> <p>小中学生のスマホ等の所持率は年々増加傾向にあることから、児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るための対策を強化する必要がある。</p>						

	<p>取組の方向性</p>	<p>本市児童生徒の英語によるコミュニケーション能力を確実に育成するため、中学校英語教員全員を対象とし、外国語指導助手（以下、「ALT」と言う。）を活用した英語漬け研修や、学校におけるALTを活用した職員研修を実施することにより、教員の指導力向上に努めるとともに、イングリッシュキャンプ（小学5・6年生及び中学校2・3年生対象の2回）及び放課後等における英会話教室等を実施（朝や昼休みの絵本の読み聞かせ、放課後子ども教室における英会話等を含め、各校の実情に合わせて実施）することにより、ALTを活用した授業時間外の取組の充実を図る。また、宇都宮学副読本の作成にあたっては、関係課等（文化課、大谷振興室、商工振興課、観光交流課等）との連携を図り、より本市の魅力を掲載できるよう作成していくとともに、教員対象の研修会を実施し、指導力向上を図る。</p> <p>令和2年度から小学校で必修化されるプログラミング教育への対応として、第2次宇都宮市学校ICT化推進基本計画に基づき、プログラミング教育を推進するとともに、児童生徒の情報モラルの育成を図る。また、教職員のICT活用指導力の一層の向上を図るとともに、タブレット型パソコン等のICTを効果的に活用した授業を推進する。</p> <p>児童生徒をスマホ等によるトラブルや犯罪被害から守るため、平成31年度より外部有識者（専門事業者を含む）による講話を全中学校で実施するとともに、小学校においても5・6年生を対象にした出前講座を積極的に実施する。また、児童生徒がスマホ等を所持・利用していることを前提とした指導を検討するとともに、「宮っ子ノーケータイアピール」を見直す。</p>
--	----------------------	---

施策（3）地域とともにある学校づくりの推進

施策目標		学校が主体性と独自性のある経営を行うとともに、地域の教育力を生かした学校づくりが推進されています。						
施策指標	産出指標	「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数				平成30年度		評価
						目標値	930件	
		実績値	912件					
		基準値 (H28)	909件	目標値 (R4)	950件	達成度	98.1%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）				目標値	95%	B
実績値						94.9%		
基準値 (H28)		94.4%	目標値 (R4)	95%以上を維持	達成度	99.9%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		「魅力ある学校づくり地域協議会」により、学校と家庭、地域、企業の連携の基盤が醸成され、単年度指標がほぼ達成されるなど、学校、地域の実情に応じた地域とともにある学校づくりの着実な推進が図られている。						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>施策指標の『「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数』については順調に伸びているものの、今後とも学校教育支援活動数の拡大を図っていく必要がある。</p> <p>平成30年度末に、第2次宇都宮市学校教育推進計画及び第2次宇都宮市学校教育スタンダードの内容を踏まえ、学校マネジメントシステム全体アンケート項目の全面的な見直しを行ったため、結果の分析を行い更なる改善に努めていく必要がある。</p> <p>地域の教育力を生かした「学校教育」をより充実させるために、事業の周知や地域の人材を活用する必要がある。</p> <p>「街の先生」において、平成30年度実績では、74小中学校が、環境整備、安全確保、教科指導の補助等に、延べ6,484人を活用しているが、さらなる活用とともに、実施校拡大に向けた働きかけを行っていく必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>絵本の読み聞かせなどより多くの学校教育への支援活動数の拡大を図っていくため、一層の周知・啓発に努める。</p> <p>本市すべての小中学校が、保護者や地域等から信頼される学校となるよう、学校マネジメントシステムにおける新たなアンケート項目の趣旨等の十分な周知を図るとともに、本システムを積極的に活用することを通して、学校経営の改善に努める。</p> <p>魅力ある学校づくり地域協議会を活用した学習支援（地域未来塾）を推進するため、事業の周知啓発とともに、整備した学習支援に係る人材バンクの効果的な運用、モデル事業を実施するなど、地域未来塾の導入推進に向けた活動支援に取り組んでいく。</p> <p>地域の教育力を生かして、学校における教育活動のより一層の充実を図るため、広報紙を活用するなどして本制度の更なる周知を図り、「街の先生」への登録を促進するとともに、各学校におけるさらなる活用を推進していく。</p>						

施策（4）教育環境の充実

施策目標		児童生徒が、充実した学習環境の下、安心して学校生活を送ることができるよう、安全で快適な教育環境が整っています。						
施策指標	産出指標	学校トイレの洋式化率				平成30年度		評価
						目標値	47.4%	
		実績値	47.7%					
		基準値 (H28)	38.2%	目標値 (R4)	57.0%	達成度	100.6%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」と回答した中学3年生の割合				目標値	63.0%	A
						実績値	66.7%	
		基準値 (H28)	60.3%	目標値 (R4)	75.0%	達成度	105.8%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>学校トイレの環境改善に積極的に取り組んだことにより、学校トイレの洋式化率は単年度目標値を上回っているところであるが、現時点の洋式化率は40%台であり、さらなるトイレ環境の改善が求められている。</p> <p>また、ICTを活用した授業を実践するためタブレット型パソコンの計画的な導入に取り組んでいるところであるが、プログラミング教育などのICTを活用した学習活動の充実が期待されている。</p>						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>老朽化が進行している学校施設の整備については、安全性確保や機能の復旧などの物理的な老朽化への対応とともに、社会環境の変化や本市の財政状況を踏まえた計画的な整備を行っていく必要がある。</p> <p>また、学校ICT化の推進については、児童生徒の情報活用能力や情報モラルの育成、さらにはICT機器を活用し、充実した授業ができる環境を整備する必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>学校施設の整備については、劣化状況などを総合的に勘案しながら整備内容を検討していくとともに、長寿命化による学校施設の長期利用を見据え、具体的な整備内容を盛り込んだ「学校施設長寿命化計画」を策定し、老朽化対策に計画的に取り組んでいく。</p> <p>また、児童生徒の情報活用能力や論理的思考力、教員の授業力の向上を図るため、これまでに整備したパソコンや、新たに全小学校に導入するプログラミング教材などを最大限に活用しながら、引き続きICT学習環境づくりに取り組んでいく。</p>						

施策（5）多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進

施策目標		様々な特性及び状態にある児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた指導・支援を推進しています。					
施策指標	産出指標	特別支援教育の推進において、一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教員の割合			平成30年度		評価
		目標値		97.0%			
		実績値		97.3%			
		基準値 (H28)	95.9%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	「私は今の学校が好きです。」と回答した児童生徒の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）			目標値	92.2%	B
実績値		91.2%					
基準値 (H28)		91.8%	目標値 (R4)	93.0%	達成度	98.9%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
施策の評価・分析		特別支援教育に係る教職員研修の実施や、学校からの要請による学校生活適応支援アドバイザー等の学校訪問相談の実施により、児童生徒の実態に応じた指導を行っている教員の割合が増加した。					
総合評価		概ね順調					
今後の施策の取組方針	課題	<p>特別な支援を必要とする児童生徒が自信と意欲をもって学校生活を送れるよう、教員の指導力向上や学級経営力の向上を図っていく必要がある。特に、特別支援学級等担当教員の指導力向上に係る対応を強化する必要がある。</p> <p>不登校数の減少に向けて、不登校を生まない学級経営及び初期段階からの組織的な対応の充実を図るとともに、不登校改善のため、学校の実情や児童生徒の個々の状況に合わせたきめ細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>いじめの未然防止や早期発見・早期対応に引き続き取り組むとともに、初期段階において迅速に組織的に対応していく必要がある。</p> <p>平成24年度以降、本市においては日本語指導が必要な児童生徒数はほぼ横ばいだが、使用言語は増え、多国籍化が進んでおり、使用言語の多様化や個に応じた指導の充実を図る必要がある。</p>					
	取組の方向性	<p>特別な支援を必要とする児童生徒に対する教員の指導力や学級経営力の向上を図るために、学校生活適応支援アドバイザーによる学校訪問において、引き続き合理的配慮に係る指導助言を行うとともに、特別支援学級等担当教員に対しては、教職員研修においてベテラン教員の指導を見る機会を設定したり、新任担当教員の訪問指導のやり方を見直したりすることで、より実践的な内容が学べる機会とする。</p> <p>教職員の不登校対応力向上を図るために、教職員研修等において、児童生徒基礎調査や不登校対策の手引書を活用した学級経営の在り方について周知することとともに、不登校対策チームの学校訪問において、学校が抱える課題をふまえた指導助言を行うことにより、スクールカウンセラー・メンタルサポーターの活用等、学校の組織的対応力の向上を図る。</p> <p>児童生徒主体のいじめ根絶集会の開催や、年4回以上のいじめアンケート実施など、いじめの未然防止や早期発見に取り組む。また、いじめを原因として不登校事案が発生した場合には、学校に速やかに市教委へ報告させ、市教委と連携しながら問題解決を図り、不登校重大事態（目安：欠席30日）の発生を防止する。</p> <p>外国人児童生徒一人一人の状況に応じた指導を行うため、第3次外国人児童生徒教育推進計画に基づき、初期日本語指導教室の充実や、日本語指導者の効果的な派遣、日本語指導者研修による指導者の専門性の向上を図る。</p>					

施策（6）教職員の資質・能力と学校の組織力の向上

施策目標		教職員の資質・能力の向上に取り組むとともに、豊富な人材を活用し学校の組織力の向上を推進しています。						
施策指標	産出指標	研究授業を年間4回以上実施した小中学校の割合				平成30年度		評価
						目標値	78.0%	
		実績値	73.0%					
		基準値 (H28)	72.85%	目標値 (R4)	87.67%	達成度	93.6%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	「教職員は、分かる授業や児童（生徒）にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合				目標値	87.8%	A
実績値						88.7%		
基準値 (H28)		86.65%	目標値 (R4)	90.0%	達成度	101.0%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>教職員の授業力向上に向けて、校内研修や校内OJTの推進、地域学校園での共通テーマによる学び合いなどを各学校が積極的に行っているものの、働き方改革の観点から校内研修の回数を精選している学校もあるものと考えられる。</p> <p>「宇都宮市教職員表彰」により、教職員の一層の資質能力と勤務意欲の向上、各学校の組織力の向上を図ったことや、多様な専門スタッフを配置して質の高い教育活動の展開に努めたことなどが、成果指標の実績値が目標値を上回る結果につながっていると考えられる。</p>						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>教職員の大量退職・大量採用が今後も継続する見通しであり、若手教員の指導力向上や中堅教員の組織マネジメント力の向上を図ることが喫緊の課題であるとともに、新しい時代に対応した教育を推進するための教職員の資質・能力の向上を図ることが必要である。</p> <p>学校における働き方改革が進められる中、教員が児童生徒と向き合う時間を確保しながら、複雑化・多様化した学校教育に関わる課題を解決するためには、教員が担っている業務を見直すとともに、専門スタッフが学校教育に参画して教員と専門スタッフが連携する「チーム学校^(※2)」体制を構築することが必要であり、専門スタッフの適正な配置と管理職のリーダーシップのより一層の強化が必要である。</p>						
	取組の方向性	<p>若手教員に対して指導力向上の研修を段階的に継続して実施するとともに、授業力向上プロジェクトや学級経営力向上プロジェクトを通して校内におけるOJTを促進する。また、学校組織及び教育課程のマネジメントを内容とする「学校運営推進リーダー養成研修」を令和元年度より立ち上げるなどして30代、40代の教職員の資質・能力の向上を図るとともに、「宇都宮市教職員表彰」において、学校運営に積極的に取り組む中堅教員を取り上げることで、ミドルリーダーの計画的育成と学校運営の活性化を図っていく。</p> <p>学校図書館司書嘱託員や学校栄養士業務嘱託員、スクールカウンセラーなどの配置により、専門性を生かした質の高い教育活動を推進するとともに、教員が児童生徒と向き合う時間を確保できるようにする。また、令和元年度より、教員数が少なく一人一人の学校運営に係る負担が大きい小規模校に対して学級担任の事務を支援する学級事務支援スタッフを配置し、担任業務を一部分担させることで学級担任の学級経営及び学習指導の充実を図る。さらに、平成31年4月に策定した「宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」に基づく業務改善の取組を促進する。</p>						

（※2）チーム学校

いじめや不登校、特別支援教育、貧困など子どもや家庭の多様な課題や、教員の多忙化への対応のために、これまで教員が中心となって担ってきた仕事を、専門スタッフや事務職員らと連携・分担して対応する体制。

施策（7）幼児教育の推進

施策目標		幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受けています。						
施策指標	産出指標	幼保小連携推進事業（児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等）を実施している学校の割合		平成30年度		評価		
				目標値	92.0%			
		実績値	95.6%					
		基準値 (H28)	86.7%	目標値 (R4)	100.0%		達成度	103.9%
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	幼稚園、保育所等に入園している児童（3～5歳）の割合	目標値	98.0%		B		
実績値			97.1%					
基準値 (H28)		96.9%	目標値 (R4)	98.0%			達成度	99.1%
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>平成29年3月に、小学校学習指導要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等が改訂され、就学前教育・保育と小学校教育のより円滑な接続を図ることを目指し、幼稚園・保育所等の園児と小学校児童との交流活動や、教職員間の相互理解を図るための情報交換などの「幼保小連携推進事業」の取組が各学校で実施されている。</p> <p>また、子ども・子育て支援新制度の施行後は、「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づく計画的な教育・保育サービスにより、幼児が人間形成の基礎となる適切な教育を受ける機会の確保が図られている。</p>						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>幼稚園・保育所等と小学校が相互理解を深めるなど、幼保小連携推進事業の取組のより一層の充実を図るとともに、社会環境や市民ニーズの変化を踏まえながら、幼児期の教育・保育の供給体制を確保していく必要がある。</p> <p>さらには、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、本市を担う人づくりを推進する上では、幼児教育の更なる充実を図っていく必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>幼保小連携推進事業の継続的な取組により就学前教育・保育と小学校教育の円滑な接続を図っていくほか、教育・保育の供給体制については、「宇都宮市子ども・子育て支援事業計画」に基づきながら、引き続き確保していくとともに、多様な保育ニーズに適切に対応し、保育サービスを必要とする全ての子育て世帯が、利用したい時に利用できる環境整備に取り組んでいく。</p> <p>また、幼児期の教育の重要性に鑑み、幼児教育の実態や課題、今後の取組の方向性などについて、幼児教育を担う幼稚園・保育所等の関係機関との意見交換を行いながら、本市の今後の幼児教育の振興方策などについても検討を進めていく。</p>						

施策（8）高校、高等教育の充実・支援

施策目標		市民が自己実現を図るために必要な、高度で専門的な学習機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	奨学金貸付基準を満たす希望者のうち、貸与を受けられることができた人の割合				平成30年度		評価
		目標値		100.0%		A		
		実績値		100.0%				
		基準値 (H29)	100.0%	目標値 (R4)	100.0%	達成度	100.0%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	市の提供講義を有意義であると感じる受講者の割合				目標値		A
		90.0%		実績値		94.9%		
		基準値 (H29)	85.4%	目標値 (R4)	90.0%以上	達成度	105.4%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において、これからの高等教育ではグローバル化や少子高齢化など急速な社会情勢の変化に対応できる多様な価値観や柔軟性を持った人材育成が求められている中、本市においては、「まちづくり」という多様性・柔軟性に富むテーマで大学に出向いて講義（提供講義）を行っている。</p> <p>貧困が世代を超えて親から子へと受け継がれてしまう貧困の連鎖などの社会問題に対し、本市においては、奨学金貸付基準を満たす希望者全てに奨学金の貸付を行っており、貸付を必要としている者に対する修学機会の確保が図られている。</p>						
総合評価		順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>市提供講義については、学修者の多様な年齢層や多様なニーズに対応するため、各種講義の充実を図りながら、引き続き、大学との連携による専門性の高い講義を提供していく必要がある。</p> <p>奨学金貸付事業については、学習意欲のある若者たちが、今後も家庭の経済状況に左右されることなく修学できるよう、引き続き、貸付を必要としている者に対する修学機会の確保を図っていく必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>市提供講義については、高度で専門的な学習を希望する大学生や市民に対して、魅力的な講義となるよう受講生や担当部局の意見を聞きながら、講義内容の充実を図っていく。</p> <p>奨学金貸付事業については、国・県等の動向を踏まえながら、子どもの貧困対策において、対象者への奨学金制度の検討を行っていく。今年度は、大学院生までの奨学金貸付対象の拡充や、債権回収の民間委託による適正な債権管理を行うとともに、返還者の利便性の向上を図るコンビニ収納の導入準備を進めるなど、制度の更なる充実を図る。</p>						

基本施策2 生涯にわたる学習活動を促進する

施策(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進

施策目標		一人一人が自己の実現や生活の向上, 地域社会の発展に向けて主体的に学ぶ機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				平成30年度		評価
						目標値	320 講座	
		実績値	305 講座					
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座	達成度	95.3%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	生涯学習センターや図書館等の利用者数				目標値	1,770 千人	B
実績値						1,761 千人		
基準値 (H28)		1,762 千人	目標値 (R4)	1,800 千人	達成度	99.5%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		生涯学習センターや図書館等において, 文化・教養的な講座や生活課題の解決に資する講座, 読書活動へつなげる講座など, 多様な講座を基準年度とほぼ同数展開したほか, 生涯学習センター利用団体の活性化や, 市民の読書活動の推進, 生涯学習センター図書館の利用促進などに取り組んできたことから, 利用者数についても基準値と同水準を維持した。						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>市民意識調査において, 無回答や「わからない」という回答が5割を超えていることから, 市民の生涯学習に関する認知度を高める必要がある。</p> <p>生涯学習センター等の利用者を増やすためには, 幅広い世代のニーズを捉え, 地域における複合的な課題により効果的に対応するための学習機会を提供する必要がある。</p> <p>社会教育施設として, 住民による主体的な活動を支援していただくためには, ICT環境の整備など社会情勢に見合った施設環境の整備が必要である。</p> <p>今後の民法改正による成人年齢引下げに伴う成人式のあり方については, 対象とする年齢等を早期に決定し, 周知する必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>生涯学習情報の発信については, SNSを活用した取組や, 市ホームページにおける事業紹介の充実, 「まなびの施設ガイドブック」の配布による施設案内など, 様々な周知啓発活動を展開する。</p> <p>施設利用者を増やすため, 対象とする年代に応じた実施日時やテーマ設定を行うとともに, まちづくり, 福祉・健康等の他部局や, 企業・NPO等, 多様な主体と連携し, 様々な課題解決の視点を取り入れた講座を企画・実施する。</p> <p>現在の社会情勢に見合った施設環境を整えるため, 施設での学習や活動で多様な情報を用いることができるよう, Wi-Fi環境の整備や住民が気軽に操作できる情報端末の整備など, ICT環境の整備を検討する。</p> <p>成人式のあり方については, 関係者からの意見聴取や, 社会教育委員の会議からの答申を踏まえて決定し, 今後も多くの若者が参加し, 教育的意義のある事業となるよう検討を進める。</p>						

施策（2）学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実

施策目標		学校・家庭・地域が互いに連携・協働し、地域全体で学び合い育ち合う教育活動に取り組む環境が整っています。						
施策指標	産出指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動数				平成30年度		評価
						目標値	4,760回	
		実績値	4,748回					
		基準値 (H28)	4,353回	目標値 (R4)	6,000回	達成度	99.7%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数				目標値	131,686人	A
						実績値	131,980人	
		基準値 (H28)	123,358人	目標値 (R4)	165,000人	達成度	100.2%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>学校・家庭・地域が連携・協働した教育活動の充実に取り組み、<u>魅力ある学校づくり地域協議会</u> ^(※3) による<u>地域未来塾（学習支援）</u> ^(※4) の実施校数を増やすとともに、<u>放課後子ども教室</u> ^(※5) の実施校区の拡大や発達段階に応じた活動が展開できるよう支援してきたことにより、学習支援や体験活動等の実施回数が増加し、参加した児童・生徒数が単年度目標値を超えた。</p>						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>より多くの生徒への学習支援や、放課後児童の安全安心な居場所づくりのため、地域未来塾や放課後子ども教室の実施校区拡大を図る必要がある。</p> <p>家庭の教育力向上については、これまで支援が届きにくかった親への支援など、よりきめ細かな家庭教育支援を推進する必要がある。</p> <p>子どもの家・留守家庭児童会については、来年度から1クラス40人以下へと支援単位が引下げになるため、クラス数の増加に対応する必要がある。また、運営体制については、将来にわたり持続可能で安定した放課後児童の居場所となるよう、再構築に取り組む必要がある。</p>						

(※3) 魅力ある学校づくり地域協議会

各小中学校単位で設置している、学校やPTA、自治会などの地域の人たちで構成され、未来を拓く心豊かでたくましい宮っこを育むために、学校・家庭・地域・企業と一体となって、「学校教育の充実」と「家庭や地域の教育力向上」に取り組む組織。

(※4) 地域未来塾

生徒の学習習慣の定着及び家庭学習時間の増加を図るため、家庭の状況にかかわらず、学びたい生徒が学べる仕組みとして、魅力ある学校づくり地域協議会の地域の教育力を生かして中学生を対象に学習支援を行う取組。

(※5) 放課後子ども教室

放課後等における全ての児童（参加希望の児童が対象）の健全育成を図るため、体験活動や異年齢交流活動、学習支援の場を提供することを通して、地域ぐるみで子どもを育む取組。

	取組の 方向性	<p>地域未来塾について、<u>学習支援のための人材バンク</u> ^(※6) への登録者の学習支援体験の場として、モデル事業を実施するなど、導入推進に向けた活動支援に取り組む。また、放課後子ども教室の未実施校区に対して、立ち上げにあたっての課題を把握し、学校区ごとの実情に応じた立ち上げ支援を強化する。</p> <p>家庭教育支援が届きにくかった親への「届ける支援」として、家庭訪問の実施や、<u>家庭教育支援活動者</u> ^(※7) の地域における活動の充実などに取り組む。</p> <p>子どもの家・留守家庭児童会については、利用児童数増加や支援単位の引き下げに対応するため、実施場所の確保や運営支援を行う。また、運営体制については、民間業者や他自治体の導入事例を調査し、詳細設計内容に反映させながら将来にわたり持続可能で安定した放課後児童の居場所となるよう再構築を行う。</p>
--	------------	--

(※6) **学習支援のための人材バンク**

大学生等に呼びかけ、地域未来塾やそのモデル事業などにおいて、学習支援員となる人材を登録したもの。

(※7) **家庭教育支援活動者**

家庭教育サポーターと親学習プログラム指導者の機能を有し、本市の家庭教育支援事業（親学出前講座や子どもの家での親子講座の開催等）で活動する支援者の総称。

施策（3）学んだ成果を生かした活動の推進

施策目標		学びを通して、様々な団体や人とのつながりが深まり、学んだ成果を生かして活動する機会や場が充実しています。						
施策指標	産出指標	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数				平成30年度		評価
						目標値	320 講座	
		実績値	305 講座					
		基準値 (H28)	315 講座	目標値 (R4)	340 講座	達成度	95.3%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	学習活動の支援に関わる活動者数				目標値	660 人	A
実績値						683 人		
基準値 (H28)		637 人	目標値 (R4)	750 人	達成度	103.5%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		生涯学習センターや図書館等において多様な講座を基準年度とほぼ同数実施し、それらの学習機会を通じて他者の学習活動を支援する活動に結びつけてきたことから、活動者数が単年度の目標値を超えた。						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>各地域の青少年健全育成活動の更なる活性化につなげるため、幅広い世代の人材による、継続的な事業の実施体制を構築する必要がある。</p> <p>「学習と活動の循環」を促すためには、市民が学んだ成果を発表する場や生かす機会を増やし、更なる学習意欲の向上へつなげる必要がある。</p> <p>生涯学習情報提供システム（マナビス）^(※8)については、より使いやすく効果的なシステムにするとともに、市民への積極的な周知に取り組む必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>青少年指導員や魅力ある学校づくり地域協議会等の関係者を対象に、子どもの体験活動指導者の育成に取り組む。また、家庭教育支援活動者の育成や、地域における家庭教育に関する活動の充実などに取り組む。</p> <p>市民が学んだ成果を発表する場や生かす機会として、「人づくりフォーラム」^(※9)と一体的に開催する「地域教育メッセ」^(※10)の更なる充実を図る。また、新たに、マナビスに講師登録する人材を対象に、市民が自ら講座を開催できるよう、場所の確保や広報等の支援に取り組む。</p> <p>マナビスについては、令和2年度中の更新を見据え、システム内容の検討とともに、積極的な周知に取り組む。</p>						

(※8) 生涯学習情報提供システム（マナビス）

生涯学習関連情報である、講座情報、イベント情報、施設情報、団体情報、講師情報などを、インターネットにより提供している生涯学習情報提供システム。

(※9) 人づくりフォーラム

「宮っこ未来ビジョン」における、人間力の高い、心豊かでたくましい人づくりを実現するため、学校・地域・家庭・企業等が人づくりの取組の発表や情報交換等を行い、人づくりの取組の拡大を図るとともに、参加した市民が人づくりの重要性を再認識し、自発的・継続的な行動を起こすきっかけとなるよう開催している事業。

(※10) 地域教育メッセ

宇都宮市内を拠点に、地域で学んだことを生かした活動を行っている、またはこれから行う意欲のある市民活動団体・自主活動グループや市民が、今後の活動の活性化や機会づくりの場とするため、活動紹介・情報交換などの交流を行う事業。

基本施策3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する

施策(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進

施策目標		市民の誰もが、それぞれのライフステージや志向に応じて、継続的にスポーツを楽しむことができる機会が整っています。					
施策指標	産出指標	地域スポーツクラブがカバーする地域数			平成30年度		評価
					目標値	14 地域	
					実績値	10 地域	
		基準値 (H29)	10 地域	目標値 (R4)	30 地域	達成度	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	地域スポーツクラブ会員数			目標値	4,668 人	B
			実績値	3,582 人			
基準値 (H29)		3,336 人	目標値 (R4)	10,000 人	達成度	76.7%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
施策の評価・分析		市民がライフステージや志向に応じて、継続的にスポーツを楽しむことができるよう、更なる地域スポーツクラブの活性化に向けて、広報・PR活動を強化したことで、クラブ会員が増加するなど、市民のスポーツ活動を推進できた。					
総合評価		概ね順調					
今後の施策の取組方針	課題	<p>ビッグスポーツイベントを間近に控え、市民のスポーツに対する意識・関心はこれまで以上に高まりをみせていることから、この機運を活かし、「ひとり1スポーツ」の実現に向け、地域におけるスポーツ活動に対する支援や<u>ニュースポーツ</u> <small>(※11)</small>の普及促進等を積極的に行うなど、市民のそれぞれのライフステージ等に応じたスポーツ活動を促進する必要がある。</p> <p>地域のスポーツ活動の支援においては、既存の地域スポーツクラブの更なる活性化を図るとともに、クラブ未設置地域に対しても設置に向けて積極的な働きかけを行う必要がある。また、子どもから高齢者まで気軽にでき、スポーツ活動のきっかけとなるニュースポーツについても、更なる普及促進に向けて取り組む必要がある。</p>					
	取組の方向性	<p>幅広い世代が身近にスポーツに親しめるよう、地域スポーツクラブの更なる活性化に向けて、クラブの取組を広くPRするほか、<u>地域スポーツクラブ連絡協議会</u> <small>(※12)</small>による連携事業などを実施し、クラブ間の交流・情報交換を促進する。また、未設置地域に対しては、まちづくり協議会などの関係団体に対し、既存クラブの活動状況を紹介するなど、クラブ設立に向けた機運が醸成されるよう積極的に働きかけを行う。</p> <p>さらに、ニュースポーツの普及促進に向けて、ニュースポーツ用具の無料貸出しの情報を市ホームページ等を活用しながら効果的に発信するとともに、<u>スポーツ推進委員会</u> <small>(※13)</small>や<u>地域スポーツクラブ連絡協議会</u>などと連携し、周知・PRに取り組む。</p>					

(※11) ニュースポーツ

「ペタンク」や「グランドゴルフ」など、勝ち負けよりも楽しむことを目的とした子どもから高齢者まで幅広い世代を対象とした新しい形のスポーツ。

(※12) 地域スポーツクラブ連絡協議会

市内全8つの地域スポーツクラブで構成され、クラブ間の連絡・協力体制の確立を通して、クラブの育成・定着・発展に取り組む組織

(※13) スポーツ推進委員会

地域スポーツのリーダーとして、各小学校区域や競技団体から選出されたスポーツ推進委員109名で構成され、各種事業を通じて本市のスポーツ振興に取り組む組織

施策（2）スポーツ活動環境の充実

施策目標		スポーツを体験したり，観たりする機会やスポーツ活動の成果を試す場，スポーツに適した施設等が整っています。					
施策指標	産出指標	スポーツ教室の参加者数			平成 30 年度		評価
					目標値	49,252 人	
		実績値	49,590 人				
		達成度	100.7%				
	基準値 (H29)	49,066 人	目標値 (R4)	50,000 人	達成度		A
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定				
	成果指標	体育館（競技場，ホール・多目的室，武道場）の稼働率			目標値	78.16%	B
					実績値	73.80%	
基準値 (H29)		76.71%	目標値 (R4)	84.00%	達成度	94.40%	
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
施策の評価・分析		多様化する市民のスポーツニーズに対応できるよう，様々なスポーツ教室を開催し，目標値を上回る参加者数となるなど，スポーツを体験できる場を提供したほか，スポーツを観戦する機会の創出やスポーツ活動の成果を表す場となる大会等の実施，スポーツに適した施設等の整備など，スポーツ活動環境の充実に取り組んだ。					
総合評価		概ね順調					
今後の施策の取組方針	課題	<p>ビックスポーツイベントによる機運の高まりにも応えられるよう，これまで以上のスポーツ活動環境の充実に向けて，体育施設の適正配置や市民ニーズなどを的確に捉えた施設整備を進めるとともに，施設を適切かつ効果的に管理運営し，スポーツ活動の場を安定的に提供する必要がある。</p> <p>また，市民やスポーツ団体の競技力の向上につながるよう，スポーツ大会の開催や大会参加への支援を行うなど，日ごろのスポーツ活動を継続的に支える必要がある。</p> <p>さらに，市民のスポーツに対する興味・関心の高揚やスポーツ活動の動機づけにつながるよう，トップレベルのプロスポーツの観戦機会を創出し，スポーツを楽しむきっかけづくりを行う必要がある。</p>					
	取組の方向性	<p>スポーツ活動環境の更なる充実に向け，施設の老朽化等の状況や新たなスポーツニーズにも配慮しながら，宮原運動公園の再整備や北西部地域への体育施設整備等を推進するとともに，指定管理者制度を含めた効果的な施設の管理運営方法の導入などを検討する。</p> <p>また，スポーツ活動への参加促進や競技力向上を支援するため，市民スポーツ大会を開催するとともに，全国大会出場者や応援団等に対して，遠征費用を補助する。</p> <p>さらに，本市をホームタウンとするプロスポーツチームへの支援やプロ野球の開催誘致に取り組むほか，ジャパンカップサイクルロードレースなどの国際的スポーツイベントを開催するなど，市民のスポーツ活動の動機づけを促進する。</p>					

施策（3）スポーツを支える人材の育成・団体の活性化

施策目標		指導者の資質向上や活用が促進されるとともに、スポーツ関係団体やプロスポーツチームが活発に活動できる環境が整っています。						
施策指標	産出指標	スポーツ指導研修の受講者数				平成30年度		評価
						目標値	710人	
		実績値	594人					
		基準値 (H29)	688人	目標値 (R4)	800人	達成度	83.7%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	スポーツ少年団1団体当たりの平均指導者数				目標値	5.30人	B
実績値						4.84人		
基準値 (H29)		5.21人	目標値 (R4)	5.67人	達成度	91.3%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		市民の多様化するスポーツ活動を継続・安定的に支援できるよう、スポーツ推進委員会における研修内容を充実させるなど、スポーツ指導者の更なる資質の向上に努めたほか、市体育協会等のスポーツ関係団体や本市をホームタウンとするプロスポーツチームの活動を支援するなど、スポーツを支える人材の育成・団体の活性化に取り組んだ。						
総合評価		概ね順調						
今後の施策の取組方針	課題	市民の多様化するスポーツ活動を継続的かつ安定的に支援できるよう、安全・安心なスポーツ活動に資する研修等の実施により、スポーツ指導者の資質の向上を図るなど、スポーツを支える人材を発掘・育成する必要がある。 また、市民のスポーツに対する興味・関心の高揚やスポーツを楽しむきっかけづくりにつながるよう、地域に根差したスポーツ関係団体やプロスポーツチームが活発に活動できるよう効果的な支援を行う必要がある。						
	取組の方向性	市民のスポーツ活動を安定的に支援するため、スポーツ指導者が必要な知識・スキルを習得できるよう、地域のスポーツ振興の中心的な役割を担う「スポーツ推進委員」や、少年スポーツ振興の中心的な役割を担う「少年スポーツ指導員」に対し、豊富な知識・経験を有する講師による魅力的な研修会を企画するなど、研修内容の充実に取り組む。 また、市民のスポーツ活動の更なる促進に向け、市体育協会やスポーツ振興財団への継続的な支援や連携した事業を展開していくとともに、プロスポーツチームが魅力的な地域資源として経済的、社会的、教育的効果を十分に発揮するため、各チームの意向の把握に努めながら、施設の整備・維持管理や広報活動などの支援に取り組む。						

基本施策4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する

施策(1) 文化活動の充実

施策目標		市民が主体的に文化活動に取り組めるよう、文化鑑賞や活動ができる環境や人材・団体育成の支援体制が整っています。									
施策指標	産出指標	文化芸術事業の参加者・観覧者数				平成30年度		評価			
		目標値		348,000人		実績値			335,465人		
		基準値(H28)	342,725人	目標値(R4)	360,000人	達成度	96.3%				
		目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定							
	成果指標	文化会館の施設稼働率				目標値	81.0%		A		
		基準値(H26)		78.6%		目標値(R4)	85.0%			達成度	102.0%
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定									
施策の評価・分析		<p>施策目標の実現に向け、市民芸術祭やジュニア芸術祭の開催のほか、文化会館や美術館を核とした鑑賞事業や教育普及事業などに取り組んでいる。</p> <p>産出指標の文化芸術事業の参加者・観覧者数については、ジュニア芸術祭20周年記念事業の開催により参加者・観覧者が増えたものの、毎年異なるテーマで開催している美術館展覧会の観覧者が減ったことにより、全体の参加者数が伸びなかった。</p> <p>成果指標の文化会館の施設稼働率については、大規模改修に伴うホール音響特性の向上やトイレ増設など利便性が高まったことや、県総合文化センターが工事休館しているに伴い文化会館の利用が増えたことにより、稼働率が高まった。</p>									
総合評価		概ね順調									
今後の施策の取組方針	課題	<p>市民や子どもたちが日々の暮らしの中に文化芸術を取り入れ、より豊かで充実した生活を送ることができるようにするため、文化芸術に気軽に触れる場や発表・活動の機会の充実を図るとともに、文化芸術に関する様々な情報を市民が容易に得ることができるようにするため、情報発信の充実を図っていく必要がある。</p> <p>本市の文化芸術の創造と発展を図り次世代に継承していくため、文化芸術に取り組む人材や団体の育成・支援の充実を図っていく必要がある。</p>									
	取組の方向性	<p>「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「文化を身近に感じ、活動できる環境づくりの推進」に向け、市民芸術祭やジュニア芸術祭の一層の活性化を図るほか、文化会館・美術館を拠点とした質の高い文化芸術の鑑賞機会や子どもたちを対象とした教育普及事業を積極的に展開する。また、「うつのみや文化創造財団」を核として文化芸術に関する幅広い情報の収集・発信の充実を図る。</p> <p>「文化をつなぐ人材育成の推進」に向け、「宇都宮エスペール賞^(※14)」の選考による次代を担う優れた芸術家の発掘のほか、「宇都宮市文化協会」や「うつのみやジャズのまち委員会」等と連携し、様々な事業を通じて市民や子どもたちの文化芸術に対する興味関心を高め、裾野の拡大を図る。</p>									

(※14) 宇都宮エスペール賞

文化芸術活動が顕著で、今後の活躍が期待できる本市ゆかりの芸術家に「宇都宮エスペール賞」を授与するとともに、育成金200万円を贈呈し活動支援を行う。受賞者は3年以内に成果発表（宇都宮美術館での展覧会、又は宇都宮市文化会館でのリサイタル）を行う。

施策（2）文化の創造・継承、保存・活用

施策目標		市民が郷土に誇りや愛着を感じ、地域の魅力づくりや絆づくりに生かすことができるよう、文化資源が保存・活用されています。						
施策指標	産出指標	文化資源の周知啓発事業参加者数				平成30年度		評価
						目標値	37,500人	
		実績値	39,820人					
		基準値 (H27)	36,117人	目標値 (R4)	40,000人	達成度	106.1%	
	目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定					
	成果指標	文化財展示施設利用者数				目標値	154,300人	A
実績値						169,402人		
基準値 (H27)		152,001人	目標値 (R4)	178,000人	達成度	109.8%		
目標値の設定方法		これまでの実績を参考に設定						
施策の評価・分析		<p>施策目標の実現に向け、飛山城史跡公園など文化財展示施設を拠点とした普及啓発事業のほか、百人一首など本市固有の文化資源の活用事業に取り組んでいる。</p> <p>産出指標の文化資源の周知啓発事業参加者数については、百人一首の認知度の高まりに伴い、百人一首市民大会・全国大会の参加者が過去最多を更新したことなどにより、参加者数が増えた。</p> <p>成果指標の文化財展示施設利用者数については、大谷石文化の日本遺産認定などを契機に歴史文化に対する市民の興味関心が高まりつつあり、宇都宮城址公園ガイダンス施設やうつのみや遺跡の広場などの来園者が増えたことにより、利用者数が増えた。</p>						
総合評価		順調						
今後の施策の取組方針	課題	<p>市民や来訪者が本市の歴史文化について理解を深め興味関心を喚起するとともに、郷土への誇りや愛着の醸成や来訪意欲を高めていくため、歴史文化資源に関する把握・整理や調査研究を進め、その価値や魅力を導出するとともに、保存・活用や普及啓発、情報発信などの取組を推進していく必要がある。</p> <p>地域固有の歴史文化を地域の絆づくりや活性化に生かしていくため、地域で育まれた伝統や生活文化を守り伝える団体の育成・支援を推進するほか、本市ゆかりの歴史文化資源を活かした地域活性化の取組を推進していく必要がある。</p>						
	取組の方向性	<p>「第2次宇都宮市文化振興基本計画」に基づき、「宇都宮文化の創造・継承」に向け、「中世宇都宮氏」など本市の歴史文化の特色を紐解いた「エイト・ストーリー」の普及啓発や「日本遺産 大谷石文化」の魅力発信に積極的に取り組む。また、地域で大切に守り継がれてきた歴史文化資源を市民共有の財産として保存・活用を図るため「(仮称)宇都宮市民遺産制度」の創設に取り組むほか、「宇都宮伝統文化連絡協議会」や「宇都宮市文化財ボランティア協議会」と連携し、子どもたちが伝統文化に触れる機会や市民主体による歴史文化資源の保存・活用の取組を支援する。</p> <p>「文化を活かしたまちづくりの推進」に向け、本市ゆかりの文化資源である「百人一首」の普及啓発や、「ジャズ」を核とした音楽の振興を図るため児童生徒向けの「学校普及ジャズ」や市民向けの「ジャズセミナー」などに取り組むほか、全国的にも稀有な「うつのみや妖精ミュージアム」において妖精資料を活用した多彩な企画展を開催するなど本市ならではの取組を推進する。</p>						

～第5章 広報・広聴活動～

1 広報活動

◆「教育委員会だより 第19号」の発行（平成31年2月）

【配布先】 保育園～高等学校までの全ての学校，自治会回覧，各公共施設

【内容】

宇都宮市の教育の魅力発信！

- ・「大谷石文化」の日本遺産認定
- ・大人の行動規範「子どもの手本となる50の言葉」の選定
- ・小中一貫教育・地域学校園の推進，「宮っ子心の教育」の推進，宮っ子ステーションの運営，ひとり1スポーツの推進 など

きらきらびと☆見つけた！

- ・様々なスポーツで活躍する宮っ子などの紹介

お役立ち情報

- ・2022年いちご一会とちぎ国体が開催，家庭教育に役立つ情報の発信，就学援助制度について，ニュースポーツの普及・促進

平成30年度イベントの様子

- ・第11回うつのみや人づくりフォーラムなど



◆メディアの有効活用

- ・市ホームページへの教育委員通信「みんなで育てよう かがやく宮っこ」の掲載（随時）
教育委員の活動報告（教育施設の視察，懇談会等）を発信した。
- ・教育委員会ホームページ（トップページ）の活用
月替わりで学校（中学校1校，小学校2校）における活動の様子を撮影した写真を掲載し，市民の学校活動に対する一層の理解を図った。

◆パブリシティ^(※15)の有効活用

・パブリシティ相談窓口の設置

教育企画課と学校教育課にパブリシティ相談窓口を設置し，パブリシティを強化したい教育委員会事務局各課及び教育機関からの相談を受けて報道関係機関へ働きかけを行うなど，パブリシティの積極的活用を図った。

・パブリシティ活動による情報提供

情報提供件数は，過去5年間で最も多かった。

	平成29年度	平成30年度	前年比
年間	299件	368件	23.0%
情報提供強化月間 (8月～11月)	108件	142件	31.4%

(※15) パブリシティ

パブリシティとはPRの一種で，プレスリリースやインタビューへの対応などを通して，メディア取組内容などを取り上げてもらう活動のことをいう。

【パブリシティ活動の活動指標（目標値）】

- 目標1 平成25年度 212件 ⇒ 平成30年度までに365件
 <教育委員会1日1件パブリシティ運動>
- 目標2 各学校・施設において年間最低1件は情報提供をする。

◆効果的な情報発信の仕組みづくり

・「知ってもらおう運動」の推進の継続

局内課長補佐をメンバーとした「知ってもらおう運動推進会議」を月1回開催し、教育委員会全体として効果的なPR戦略をまとめ、実践した。

2 広聴活動

◆教育委員会の活動

教育現場からの意見を広く取り入れるため、教職員との懇談会や教育施設視察時の関係者との意見交換会などを通して、教育現場の意向を把握するとともに、教育委員会会議での「学習内容定着度調査結果」などの報告案件や「うつのみや学校マネジメントシステム」などの各種アンケートにより、教育現場の実態を把握した。

◆教育行政相談

平成30年度に教育委員会が投書やメール等で受けた教育行政相談については下記のとおりであり、教育委員会会議で報告し、情報共有を図った。

課名	相談内容	件数
教育企画課	宮っこ未来ビジョンに関する事	1
学校管理課	学校施設の維持管理に関する事	2
	その他	3
学校教育課	学級編制・教職員の配置に関する事	1
	教育制度に関する事	1
	児童生徒指導に関する事	3
	児童生徒の問題行動、非行に関わる学校事故に関する事	1
	その他	3
学校健康課	学校給食の栄養・衛生管理に関する事	1
	通学路の安全に関する事	1
	就学時健康診断に関する事	1
	その他	2
生涯学習課	生涯学習センターの利用に関する事	1
	放課後児童に関する事	4
	図書館・視聴覚ライブラリーの事業に関する事	7
	図書館・視聴覚ライブラリーの利用に関する事	2
	その他	1
文化課	文化会館に関する事	3
	美術館に関する事	1
	その他	1
スポーツ振興課	スポーツ施設、サイクリングターミナルの整備及び管理運営に関する事	8

～第6章 総合評価～

1 評価

- ・教育委員会活動については、部活動指導員の導入による、現状と課題等の把握のための教育施設視察や、働き方改革など教育現場における課題をテーマとした教育関係者との懇談会等の活動により、教育現場の実態把握や課題認識の共有を図るとともに、委員 de サロンにおいても、子どもの家等事業に係るあり方検討の進捗状況をはじめとした、各課業務の現状や課題について理解を深めることで、教育委員会会議において教育現場の実態や意向などを踏まえた、充実した議論を行うことができた。
- また、教育委員会主要事業の進行管理報告や、教育委員会会議における自由討議、教育委員の課担当制、各課事業の現状・課題等にかかる意見交換のための委員 de サロンなどの取組により、教育委員による教育長及び教育委員会事務局の事務執行にかかるチェック機能の強化を図ることができた。
- ・総合教育会議については、会議を通して、「郷土への愛情や誇り」の醸成に向けた、「宇都宮学」の創設について共通認識を図るとともに、「宇都宮学」をより充実した取組に繋げていけるよう、市長と教育委員会が連携し取り組んでいくことを確認することができた。
- ・教育委員会施策については、第6次総合計画基本計画の体系のうち、教育委員会に關係する4つの基本施策とそれを構成する16の施策について、本市で実施している行政評価を活用しながら評価した結果、基本施策を構成する16の施策について、施策指標の達成度や市民意識調査結果の満足度などで評価される総合評価は「概ね順調」又は「順調」で、計画的に施策事業の推進が図られている。
- ・広報・広聴活動については、「教育委員会だより」の内容の充実や、過去5年間で最も多いパブリシティ活動を行うなど、教育委員会の取組について広く市民に知ってもらうための広報活動を行うことができた。

2 課題と今後の方向性

- ・教育委員会活動については、教育行政を取り巻く急激な環境の変化に伴い、教員の働き方改革や子どもの家等事業など、様々な課題が浮き彫りとなっている中、教育委員会会議において教育現場の実態や意向などを踏まえた充実した議論を行っていく必要があることから、引き続き、本市の教育行政の重点課題や時勢を捉えながら、教育施設視察や教育懇談会などの充実を図る。また、視察等の実施においては、可能な限り教育委員会会議と同日開催とするなど効率的・効果的な活動に努めていく。
- ・総合教育会議については、第6次総合計画に掲げる「子育て・教育の未来都市」、「魅力創造・交流の未来都市」の実現に向け、市長と教育委員会がより緊密に連携を図り、総合的・横断的な教育行政を推進することが重要であることから、会議を通して協議・調整を行い、より一層の教育行政の充実に努めていく。
- ・教育委員会施策における各課題等については、事業の継続的な実施や取組の充実などにより、施策指標の達成に向けて取り組んでいく。
- ・広報・広聴活動については、「市民に見える教育委員会」の実現に向け、広報活動の充実に取り組んでいく必要があることから、市民にとって分かりやすい広報物の作成に努めるとともに、教育委員会だよりの発行や積極的なパブリシティ活動を行うなど、あらゆる機会を通して教育委員会の広報活動の充実に取り組んでいく。また、平成26年度以降の取組について評価・検証を行い、広報プランの改定に向けて取り組んでいく。

～第7章 評価委員による所見～

1 教育委員会評価委員会議

【日 程】令和元年7月4日（木）

【結 果】

- ・事務局から本年度の教育委員会評価の概要について説明したのち、「平成30年度評価委員の所見への対応状況」、「教育委員会の活動」、「教育委員会施策」、「広報・広聴活動」についてご意見をいただいた。
- ・各評価委員からの所見については下記のとおり。



2 評価委員による所見

◆ 渡邊 弘 委員

(1) 総合評価

- ・全体的な評価のあり方については、評価の趣旨を踏まえ、評価のしくみ、評価対象、実施期間、評価方法の全般にわたり、教育に関する事務管理及び執行の状況の点検評価が全体的に適切に実施されていると判断する。
- ・評価・点検の方法についても、自己評価の実施や外部評価の聴取を中心として、PDCAサイクルが機能しており適切に行われていると判断する。
- ・平成30年度評価委員の所見への対応も誠実にされており、特に問題はないと判断する。
- ・報告書の作成についても、図表や写真などの掲示により分かりやすくまとめられており適切に行われていると判断する。

(2) 教育委員会の活動

- ・現状における教育委員の活動状況をデータ化して見える化を図り、適切に自己評価を行っている。
- ・「委員協議会」の一部を「委員研修」や「委員 de サロン」に移行したことにより、開催回数及び開催時間が減少した点は評価できる。
- ・委員の負担軽減を考慮した効率的、効果的活動を目指して、教育委員会と教育施設視察等の活動の同日開催を今後も一層配慮していただきたい。
- ・教育懇談会の開催は、働き方改革が求められている現在、今後さらに充実していただきたい。
- ・学校などへの視察については、今後も現代の喫緊の教育課題等を視野に入れて、学校選択及び情報交換を積極的に行っていただきたい。
- ・新たに設けられた「宇都宮学」については、さまざまな分野と連携して充実したものになることを期待している。

(3) 教育委員会施策

- ・基本施策・施策については、全体的に「順調」あるいは「概ね順調」であり、また各施策では、「施策目標」「施策指標」「評価・分析」「今後の取組方針」の各項目において、社会情勢や市民のニーズなどを十分に踏まえながら具体的に記載されており、適切に自己評価が行われていると判断する。
- ・今後は、各施策の諸課題を精査検討して、「概ね順調」から「順調」を目指していただきたい。

(4) 広報・広聴活動

- ・広報活動では、昨年度に比較してパブリシティ活動による情報提供が23%増加していることで、大変評価できる。
- ・今後も「教育委員会1日1件パブリシティ運動」を推進していただくとともに、市民にわかりやすい工夫をさらに進めていただければと考える。
- ・広聴活動については、教育現場の実態把握という観点から、今後も積極的に意見交換やアンケートを実施していただきたい。

◆ 加藤 史子 委員

(1) 総合評価

- ・報告書はわかりやすくまとめられ丁寧に作成されており、評価委員会においても委員の意見や質問に対し丁寧に対応していただいた。
- ・施策目標に対する指標の設定については、1つの指標に限定せず、参考となる複数の指標の設定が必要と思われた施策もあったが、全体的な評価の在り方や方法について、問題はないと考える。

(2) 教育委員会の活動

- ・教育委員が様々な機会を得て、知識や理解を深めながら課題に取り組む姿勢や、視察や研修、各懇談会等における成果がうかがえることから、適切な事務管理及び執行、また、自己評価が行われていると判断できる。
- ・教育委員と事務局との適度な距離感が保たれており、事務執行に関わるチェックも含め、信頼と対話の上に活動が実施されていることがうかがえる。委員にとっても負担感のない効率的で円滑な委員活動が実施されていると判断できる。
- ・総合教育会議の実績報告から市長との連携強化がうかがえ、教育行政への反映が期待できる。
- ・視察や研修の内容については、検討課題となっている事案を捉えており妥当と考える。

(3) 教育委員会施策

- ・全体を通して、具体的な施策について実情を踏まえた自己分析と、課題を多面的に配慮しながら取組の方向性を見定めていることがうかがえ、自己評価が適切に行われていると判断できる。
- ・市全体で捉えた数値目標で概ね順調と評価している施策であっても、学校区や自治会区などの実情により実現が困難な場合があることから、今後も個々のケースに丁寧に向き合い細やかに柔軟な対応をお願いしたい。

(4) 広報・広聴活動

- ・パブリシティの活用増加や、効果的なPR戦略の実践等の実績から、充実した広報活動が行えていると判断できる。
- ・知りたいことは自分で検索してすぐに調べられる時代だからこそ、わかりやすく整理された情報の提供が求められる。受け取り手が、得た情報を充分活用できているかが重要であるので、引き続き、より伝わりやすい広報物の作成に努めていただきたい。

～ おわりに ～

社会情勢の変化や教育ニーズの多様化などにより、教育をめぐる様々な課題が顕在化している中、その中核を担う教育委員会においては、これまで以上に学校や家庭、地域、企業などと一体となった取組が求められております。

本市教育委員会においては、「共に歩む教育委員会、先を見る教育委員会」をモットーに、教育現場の実態を踏まえながら、学校と共に、家庭と共に、また地域と共に、10年先、20年先を見据えた教育行政を推進しております。

また、本市では、平成17年度に策定した、本市における人づくりの指針である「宮っこ未来ビジョン」の基本理念及び基本目標を、平成27年度に宇都宮市教育大綱として位置付けたところであり、心豊かでたくましく生きることができる人づくりの実現という目標に向かい、学校教育の充実はもとより、家庭や地域の教育力の向上などの様々な取組を展開しております。

このような中、本市では、「第6次宇都宮市総合計画」において、誰もが生涯にわたって主体的に学ぶことができる「子育て・教育の未来都市」の実現が目標に掲げられたところであり、「次代を築く人づくり」が改めてまちづくりの重点課題として位置付けられました。

今後さらに「人づくり」を推進していくためには、「Society 5.0」の実現する時代を見据え、将来の予測が困難な社会を子ども達がたくましく生き抜く力を育む人づくりや、「人生100年時代」を迎える中、子どもから大人まで生涯にわたる「知・徳・体」のバランスのとれた人づくりに向け、学校教育をはじめ、生涯学習の推進や文化芸術の振興、生涯スポーツの推進に取り組むなど、総合教育会議などを活用して市長と緊密に連携を図りながら、総合的・横断的に教育行政を展開していく必要があります。

教育委員会の点検・評価につきましては、議会への報告や市民への公表を行うことにより、本市教育委員会の取組について多くの市民の皆さまに知っていただくとともに、本市教育行政への御理解、御協力をいただく機会となることを期待しております。

今後とも、この点検・評価の結果を踏まえ、本市の教育を担う責務を十分に認識しながら、常に教育行政の根本に立ち返り、社会情勢や新たな教育ニーズに応じた効果的な施策の展開に努め、新しい宇都宮の未来を切り拓く「人づくり」を推進してまいります。

平成30年度 教育委員会付議案件等一覧

◆平成30年第5回教育委員会【臨時会】(平成30年4月2日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第19号	平成30年度教育委員会基本方針について

◆平成30年第6回教育委員会【定例会】(平成30年4月20日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第20号	平成30年度教育委員会の活動について
	議案第21号	宇都宮市社会教育委員の解職及び委嘱について
報告	報告第17号	平成30年度教育委員会主要事業について
	報告第18号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第19号	平成29年度宇都宮市奨学金貸付者の選考結果について
	報告第20号	平成29年度宇都宮市入学一時金貸付者の選考結果について
	報告第21号	教育長の権限に属する事務の委任及び事務決裁規程の一部改正
	報告第22号	宇都宮市教育委員会文書取扱規程の一部改正
	報告第23号	管理職員等の範囲を定める規則の一部改正
	報告第24号	宇都宮市会計規則の一部改正
	報告第25号	宇都宮市総合計画策定に関する規則の一部改正
	報告第26号	教育委員会の広報活動について
	報告第27号	テクノポリスセンター地区新設小学校校舎実施設計について
	報告第28号	宇都宮市特別支援教育就学奨励費支給要綱の制定について
	報告第29号	平成29年度児童虐待通告受付等の状況について
その他	(1)	平成29年度第3回社会教育委員の会議の結果について
	(2)	平成30年度「図書館カレンダー・しおり」広告掲載者の決定について
	(3)	平成30年度(上半期)視聴覚ライブラリー映画会一覧表について
	(4)	平成30年度市民芸術祭スケジュールについて
	(5)	宇都宮市文化会館2018プログラムについて
	(6)	宇都宮美術館平成30年度展覧会スケジュールについて
	(7)	宇都宮ジャズ・イベント2018
	(8)	とびやま歴史体験館平成30年度スケジュールについて
	(9)	平成30年度宇都宮市スポーツ振興財団の自主事業について

◆平成30年第7回教育委員会【定例会】(平成30年5月31日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第22号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第23号	平成31年度使用教科用図書の採択の基本方針等について
	議案第24号	宇都宮市社会教育委員の解職及び委嘱について
	議案第25号	宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員の解職及び委嘱について
	議案第26号	宇都宮市教育支援委員会委員の解職及び委嘱について

審議	議案第27号	宇都宮市教育支援委員会への諮問について
報告	報告第30号	平成31年度指定管理者の更新について
	報告第31号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第32号	平成29年度就学援助の支給状況等について
	報告第33号	学校等事件・事故について
	報告第34号	平成29年度学校給食費滞納対策の結果について
	報告第35号	西原小学校における食中毒の発生について
	報告第36号	子どもの家等事業に係るあり方に関する懇談会の設置及び委員の委嘱について
	報告第37号	「大谷石文化」をテーマとした日本遺産認定及び今後の取組について
その他	(1)	部活動指導員について
	(2)	宇都宮市小学校特別支援学級合同運動会の開催について
	(3)	第77回国民体育大会宇都宮市準備委員会第2回総会の開催結果について

◆平成30年第8回教育委員会【定例会】(平成30年6月22日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第28号	平成31年度宇都宮市教育委員会組織・定員の方針について
	議案第29号	宇都宮市通学区域審議会委員の委嘱について
	議案第30号	宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会委員の解職及び委嘱について
	議案第31号	宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員の解職及び委嘱について
報告	報告第39号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第40号	学校等事件・事故について
	報告第41号	大阪府北部の地震を踏まえた学校のブロック塀等の緊急点検の結果について
その他	(1)	出版トークイベント「書くということ、彫るということ。～夢にも思わなかった新しい世界へ～」について
	(2)	南図書館開館7周年記念事業 朗読パフォーマンスユニットおはなしDecoBee♪公演について
	(3)	美術館企画展「ジョルジュ・ルオー展」について
	(4)	清明館企画展「うつのみやの戦災展」について

◆平成30年第9回教育委員会【定例会】(平成30年7月20日)

種別	議案番号	件名
報告	報告第42号	平成30年6月議会一般質問の概要について
	報告第43号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第44号	平成30年度宇都宮市返還免除型育英修学資金貸付者の選考結果について
	報告第45号	「(仮称)第3次宇都宮市外国人児童生徒教育推進計画」の策定体制等について
	報告第46号	学校等事件・事故について
その他	(1)	第14回宇都宮エスペール賞(ホール部門)の募集について
	(2)	文化会館自主事業「市民センター出前寄席」について

◆平成30年第10回教育委員会【臨時会】(平成30年7月27日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第32号	平成31年度使用宇都宮市立小・中学校教科用図書の採択について

◆平成30年第11回教育委員会【臨時会】(平成30年7月31日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第33号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆平成30年第12回教育委員会【定例会】(平成30年8月21日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第34号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第35号	教育委員会評価について
報告	報告第47号	平成30年度宇都宮ジュニア未来議会の概要について
	報告第48号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第49号	育英事業における収納対策について
	報告第50号	平成29年度いじめ、暴力行為、不登校の状況について
	報告第51号	学校等事件・事故について
	報告第52号	平成30年度全国学力・学習状況調査の結果概要について
その他	(1)	平成30年度第1回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(2)	平成30年度第1回社会教育委員の会議の結果について
	(3)	宇都宮美術館企画展「篠山紀信展 写真力」について

◆平成30年第13回教育委員会【臨時会】(平成30年8月24日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第36号	教職員の人事の内申について
報告	報告第53号	学校等事件・事故について

◆平成30年第14回教育委員会【臨時会】(平成30年9月6日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第37号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆平成30年第15回教育委員会【定例会】(平成30年9月21日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第38号	宇都宮市学校教育問題対策専門委員会委員の委嘱について
	議案第39号	宇都宮市文化財保護審議委員会委員の委嘱について
報告	報告第54号	平成30年9月議会一般質問の概要について
	報告第55号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第56号	平成30年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第57号	隣接校との通学区域弾力化等による平成31年度入学者の募集について

報告	報告第58号	平成30年度「全国学力・学習状況調査」,「とちぎっ子学習状況調査」の結果について
	報告第59号	「学校における働き方改革」に係る本市の取組について
その他	(1)	「第13回うつのみや食育フェア」の開催について
	(2)	平成30年度第1回宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について
	(3)	うつのみや版親学と子どもの情報誌「こどもるっくる」第15号について
	(4)	平成30年度宇都宮市民大学(前期講座)実施状況について
	(5)	第24回うつのみや百人一首市民大会,蓮生記念第5回全国競技かるた宇都宮大会の開催について
	(6)	第20回うつのみやジュニア芸術祭の開催について
	(7)	「かがやく わたしの 写真展」の開催について
	(8)	宇河地区特別支援学級児童生徒作品展について

◆平成30年第16回教育委員会【定例会】(平成30年10月19日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第40号	平成31(2019)年度教育委員会当初予算編成方針について
	議案第41号	指定管理候補者の選定について
	議案第42号	平成31(2019)年度宇都宮市立小・中学校教職員定期異動に係る基本的な考え方について
報告	報告第60号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第61号	要支援児童健全育成事業における新規施設の開設について
	報告第62号	学校等事件・事故について
その他	(1)	人材かがやきセンター主催講座(前期)の実施状況について
	(2)	「第7回南としょかん祭」の開催について
	(3)	宇都宮城址まつり伝統文化と歴史の祭典の開催について
	(4)	第41回宇都宮市小学校特別支援学級合同収穫祭の開催について

◆平成30年第17回教育委員会【臨時会】(平成30年11月2日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第43号	教職員の人事の内申について

◆平成30年第18回教育委員会【定例会】(平成30年11月16日)

種別	議案番号	件名
報告	報告第63号	平成31(2019)年度教育委員会当初予算要求概要について
	報告第64号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第65号	平成30年度宇都宮市教育委員会教育支援者感謝状受賞者の決定について
	報告第66号	学校等事件・事故について
	報告第67号	「宇都宮市部活動方針～適切な部活動の在り方～」について
	報告第68号	平成30年度社会教育振興貢献企業等への感謝状贈呈企業等の決定について
その他	(1)	第11回うつのみや人づくりフォーラムの開催について
	(2)	大人の行動規範「子どもの手本となる50の言葉」について
	(3)	平成30年度第2回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(4)	宇都宮美術館「松本哲男展」について

その他	(5)	第24回うつのみや百人一首市民大会の結果について
	(6)	蓮生記念第5回全国競技かるた宇都宮大会の結果について
	(7)	宇都宮城址まつり 伝統文化と歴史の祭典の結果について
	(8)	第42回宇都宮市小学校特別支援学級合同学習発表会の開催について
	(9)	教育センター土曜公開講座「教育なう」の開催について

◆平成30年第19回教育委員会【臨時会】(平成30年11月21日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第44号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について

◆平成30年第20回教育委員会【定例会】(平成30年12月20日)

種別	議案番号	件名
報告	報告第69号	平成30年12月議会一般質問の概要について
	報告第70号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第71号	宇都宮市教育委員会におけるハラスメントの防止等に関する規程の制定
その他	(1)	第11回うつのみや人づくりフォーラムの開催結果について
	(2)	平成30年度第2回社会教育委員の会議の結果について
	(3)	第7回「南としょかん祭り」の開催結果について
	(4)	南図書館の来館者500万人達成について
	(5)	第32回宇都宮マラソン大会の結果について
	(6)	第56回宇都宮市民スポーツ大会の結果について

◆平成31年第1回教育委員会【定例会】(平成31年1月18日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第1号	第2次宇都宮市学校教育スタンダードについて
報告	報告第1号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第2号	返還免除型育英修学資金貸付制度の見直しについて
	報告第3号	平成30年度小・中学校卒業式あいさつ文について
	報告第4号	平成30年度全国学校給食週間の取組について
	報告第5号	宇都宮市教育支援委員会からの答申について
その他	(1)	市民大学(後期)実施状況について
	(2)	平成31年宇都宮市成人式の実施結果について
	(3)	宇都宮美術館「宇都宮美術の現在展」の開催について
	(4)	「大谷石文化学」キックオフイベントの開催について

◆平成31年第2回教育委員会【定例会】(平成31年2月19日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第2号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について
	議案第3号	第3次宇都宮市外国人児童生徒教育推進計画について
報告	報告第6号	教育行政相談の内容と対応について

報告	報告第7号	平成30年度教育委員会主要事業の進行管理について
	報告第8号	平成30年度宮っ子表彰及び義務教育皆勤賞表彰について
	報告第9号	平成30年度「宮っ子心の教育表彰」教育委員会賞について
	報告第10号	「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの平成30年度結果概要について
	報告第11号	平成30年度本市児童生徒の体力について
	報告第12号	子どもの家・留守家庭児童会事業のあり方の見直しについて
	報告第13号	訪問型家庭教育支援について
その他	(1)	隣接校との通学区域弾力化等による平成31年度入学者の募集結果について
	(2)	教育委員会だより第19号について
	(3)	宇都宮市立図書館における「リサイクル市」の実施結果について
	(4)	南図書館 演劇公演の開催について
	(5)	南図書館 朗読劇の開催について
	(6)	「日本遺産認定記念講演会」の開催について
	(7)	第60回栃木県郡市町対抗駅伝競走大会の結果について

◆平成31年第3回教育委員会【臨時会】(平成31年3月8日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第4号	(仮)成人式の在り方検討に係る諮問について
	議案第5号	(仮)平成31年度教育委員会の組織(職)について
	議案第6号	職員の人事について
	議案第7号	教職員の人事の内申について

◆平成31年第4回教育委員会【定例会】(平成31年3月19日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第8号	宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則の一部改正について
	議案第9号	職員の人事について
	議案第10号	宇都宮市立学校管理運営に関する規則の一部改正について
協議	協議第1号	平成31(2019)年度教育委員会基本方針について
報告	報告第14号	教育行政相談の内容と対応について
	報告第15号	平成31年3月議会一般質問の概要について
	報告第16号	平成30年度宇都宮市「学習内容定着度調査」及び「学習と生活に関するアンケート」の結果概要について
	報告第17号	「(仮称)宇都宮市学校における働き方改革アクションプラン」について
	報告第18号	児童虐待に関する相談支援体制の強化について
	報告第19号	平成32(2020)年宇都宮市成人式について
	報告第20号	平成31(2019)年度「宇都宮市教職員研修計画」の策定について
その他	(1)	平成30年度第3回生涯学習センター運営審議会の結果について
	(2)	宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会の結果について

◆平成31年第5回教育委員会【臨時会】(平成31年3月25日)

種別	議案番号	件名
審議	議案第11号	宇都宮市就学援助費交付規則の一部改正

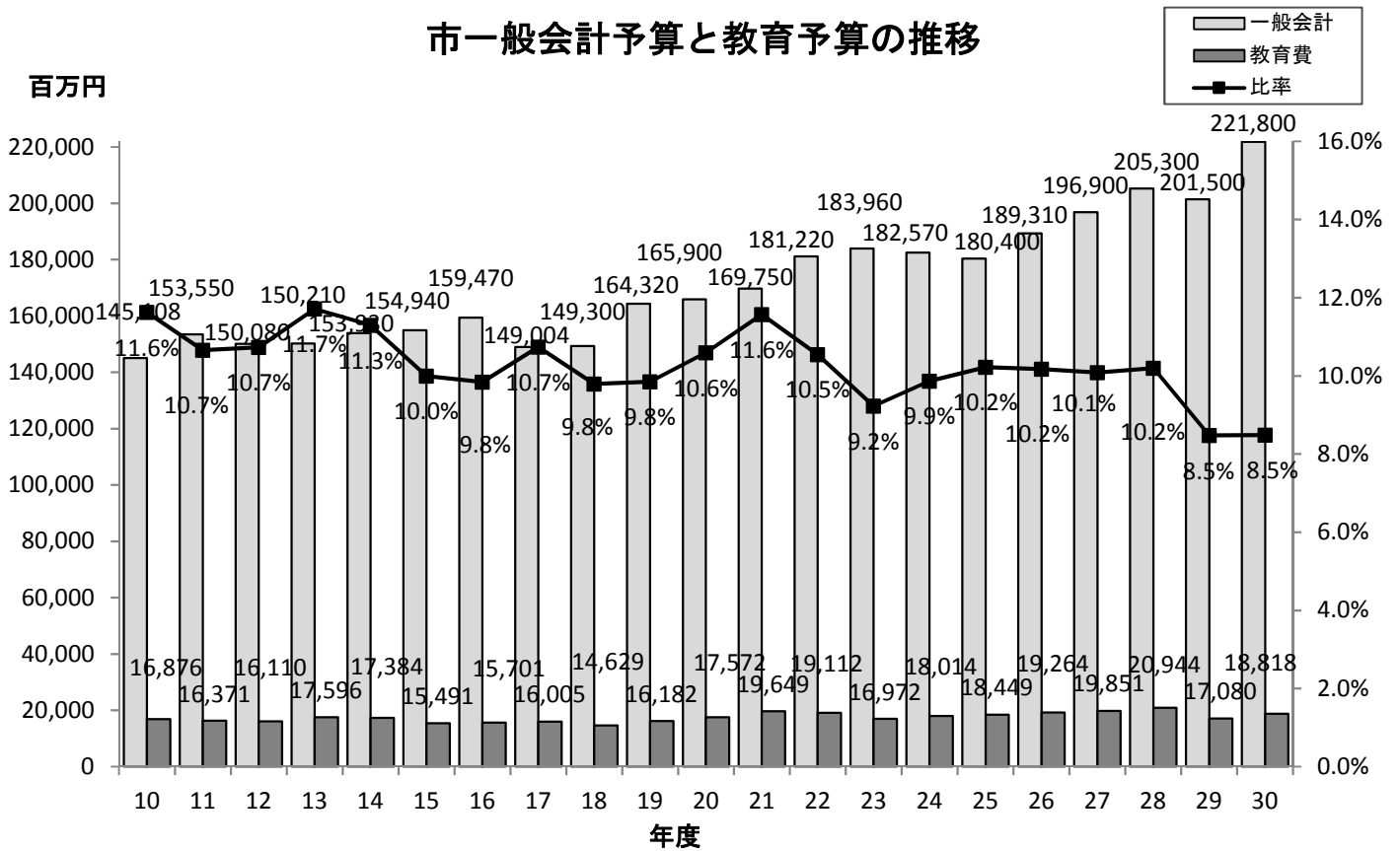
【教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧（平成30年度）】

施策名	産出指標		実績	達成度	評価(※1)	総合評価(※2)
	指標	成果指標				
1 確かな自信と志を育む学校教育を推進する						
(1) 成長の基盤となる知・徳・体の育成	全小中学校からの教育長奨励賞の申請人数（延べ人数） 「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」と回答した中学3年生の割合（学習と生活についてのアンケート）	6,546人 86.7%	6,590人 87.1%	100.7% 100.5%	A A	順調
(2) 未来を生き抜く力の育成	授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合 英検3級程度以上の英語力を有する中学3年生の割合 「魅力ある学校づくり地域協議会」による学校教育支援活動数 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」と回答した保護者・地域住民の割合（うつのみや学校マネジメントシステム） 学校トイレの洋式化率	73.8% 44.0% 930件 95.0% 47.4%	79.3% 48.6% 912件 94.9% 47.7%	107.5% 110.5% 98.1% 99.9% 100.6%	A A B B A	概ね順調
(3) 地域とともにある学校づくりの推進	インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。と回答した中学3年生の割合（学習と生活についてのアンケート）	63.0%	66.7%	105.8%	A	概ね順調
(4) 教育環境の充実	特別支援教育の推進において、一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教員の割合 「私は今の学校が好きです。」と回答した児童生徒の割合（宇都宮学校マネジメントシステム） 研究授業を年間4回以上実施した小中学校の割合 「教職員は、わかる授業や児童（生徒）にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている」と回答した保護者、児童生徒の割合（うつのみや学校マネジメントシステム）	97.0% 92.2% 78.0% 87.8%	97.3% 91.2% 73.0% 88.7%	100.0% 98.9% 93.6% 101.0%	A B B A	概ね順調
(5) 多様な児童生徒に応じた指導・支援の推進	幼保小連携推進事業（児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等）を実施している学校の割合 幼稚園、保育所等に入園している児童（3～5歳）の割合	92.0% 98.0%	95.6% 97.1%	103.9% 99.1%	A B	概ね順調
(6) 教職員の資質・能力と学校の組織力の向上	奨学金貸付基準を満たす希望者のうち、貸与を受けることができた人の割合 市の提供講義を有意義であると感ずる受講者の割合	100.0% 90.0%	100.0% 94.9%	100.0% 105.4%	A A	順調
2 生涯にわたる学習活動を促進する						
(1) 自己を磨き社会を支える学習の推進	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数 生涯学習センターや図書館等の利用者数	320講座 1,770千人	305講座 1,761千人	95.3% 99.5%	B B	概ね順調
(2) 学校・家庭・地域が相互に連携・協働した教育活動の充実	地域における学習支援や体験活動等の教育活動数 地域における学習支援や体験活動等の教育活動に参加した児童・生徒数	4,760回 131,686人	4,748回 131,980人	99.7% 100.2%	B A	概ね順調
(3) 学んだ成果を生かした活動の推進	生涯学習センターや図書館等における講座の開催数 学習活動の支援に関わる活動者数	320講座 660人	305講座 683人	95.3% 103.5%	B A	概ね順調
3 誰もが生涯を通じてスポーツを楽しむ社会を実現する						
(1) ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進	地域スポーツクラブがカバーする地域数 地域スポーツクラブ会員数	14地域 4,668人	10地域 3,582人	71.4% 76.7%	B B	概ね順調
(2) スポーツ活動環境の充実	スポーツ教室の参加者数 体育館（競技場、ホール・多目的室、武道場）の稼働率	49,252人 78.16%	49,590人 73.80%	100.7% 94.4%	A B	概ね順調
(3) スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	スポーツ指導者研修の受講者数 スポーツ少年団1団当たりの平均指導者数	710人 5.30人	594人 4.84人	83.7% 91.3%	B B	概ね順調
4 暮らしに息づく文化の創造・活用を推進する						
(1) 文化活動の充実	文化芸術事業の参加者・観覧者数（延べ） 文化会館の施設稼働率	348,000人 81.0%	335,465人 82.8%	96.3% 102.0%	B A	概ね順調
(2) 文化の創造・継承、保存・活用	文化資源の周知啓発事業参加者数 文化財展示施設利用者数	37,500人 154,300人	39,820人 169,402人	106.1% 109.8%	A A	順調

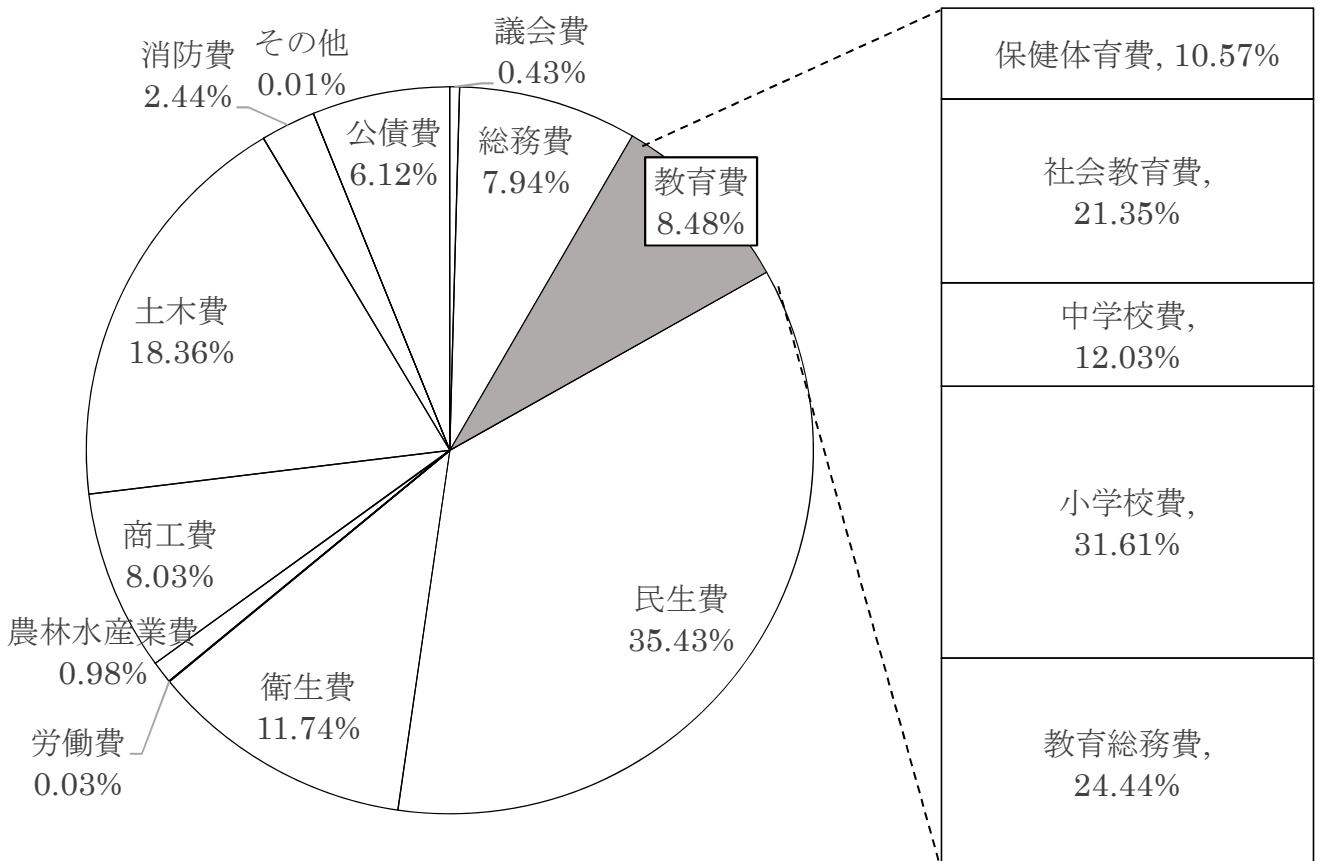
(※1)評価 A:達成度100%以上 B:達成度70%～100%未満 C:達成度70%未満
(※2)総合評価 ①順調(90点以上) ②概ね順調(75点以上90点未満) ③やや遅れ(75点未満)

【一般会計予算と教育予算】

市一般会計予算と教育予算の推移



市一般会計予算と教育予算の内訳 (平成30年度)





社会総ぐるみによる人づくりの『合言葉』

「育もう 地域の愛で 子どもの未来」

～大人が子どもの手本となり、みんなで人間力を高めます～

宇都宮市・宇都宮市教育委員会

令和元年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書

発行年月 令和元年8月

発行 〒320-8540

宇都宮市旭1丁目1番5号

宇都宮市教育委員会事務局（教育企画課）

電話 028-632-2707

FAX 028-639-7159

Eメール u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp